

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 哲郎		所 属		大学院 医学研究科		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.35	1) 神経生理学の講義・実習においては、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題までの「広く深い」知識の習得を目指す。本年度も昨年度と同様に、power pointの内容に随時改良を加えていく。さらに、非常勤講師2人による特論の講義によって、カリキュラムを充実したものとする。また、本年度から始まるM1生の新カリキュラムに向けて講義内容の組み直しを進める。2) 医学外国語ではE.Kandelの神経生理学教科書を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に英文で教科書を読む英語力の習得を目指す。3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の進歩を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指す。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起する。5) 第4年次の指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じる。臨床科目を学ぶ学生に対して随時e-mailや面談により丁寧な相談をおこない、彼らの医学へのmotivationを高めていく。				0.35	1) M2生の神経生理学の講義・実習においては、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題までの「広く深い」知識を習得させることができた。本年度も昨年度と同様に、power pointの内容に改良を加えた。非常勤講師2人による特論の講義によりカリキュラムを充実させることができた。本年度から始まったM1生の新カリキュラムに対しても内容の組み直しをおこない、講義をおこなった。2) 医学外国語ではE.Kandelの神経生理学教科書を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に英文で教科書を読む英語力の習得させることができた。3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の進歩を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させることができた。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱の喚起をおこなった。5) 第4年次の指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じた。臨床科目を学ぶ学生に対して丁寧な相談をおこなうことができた。				
研究	0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、これまでに継続してきた、実験的心房細動の光学的解析の研究を進める。一昨年度末に導入したCMOSカメラを用いて興奮伝播のイメージングを進めていく。この研究は方法論的にも実験系としても世界唯一のユニークな研究である。研究成果は論文にまとめて発表するほか、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなう。研究費については、本年度は一昨年度より継続で科学研究費補助金の獲得に成功しており、これの有効な活用をおこなう。さらに民間外部資金への応募を積極的におこなう。				0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、実験的心房細動の光学的解析の研究を進め、scMOSカメラを用いて活動電位の伝播パターンを動画化する技術を確立した。この技術により実験不整脈発現中の活動電位の伝播を動画として観察できる。なお、この実験系を用いた不整脈研究は、世界的にもユニークなものである。研究費については、本年度は昨年度より継続で科学研究費補助金を得ており、これの有効な活用をおこなった。				
社会貢献	0.05	日本生理学会評議員を務め、日本生物物理学会・日本神経科学学会・日本循環器学会・米国心臓学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会の発展に貢献する。				0.05	日本生理学会評議員を務め、日本生物物理学会・日本神経科学学会・日本循環器学会・米国心臓学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会の発展に貢献することができた。				
管理運営	0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視した教室の管理・運営をおこなう。廃棄物委員会委員、図書館分館運営委員、研究概要委員として委員会活動に参加する。				0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視した教室の管理・運営をおこなうことができた。廃棄物委員会委員、図書館分館運営委員、研究概要委員として委員会活動に参加した。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		細川 浩	所 属		医学部 システム生理	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	Neuroscienceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。 指導教員として学生の勉学、生活面の相談に応じアドバイスする。			0.45	最近のNeuroscienceの研究成果に基づきTBLの講義ノートを作成した。 大講堂での講義のためスライド原稿を作成した。 学生評価アンケートを参考に情報演習を易しくした。 M4の指導員として4、10月に班会を開いて学生の近況を把握し、勉学、生活面のアドバイスを行った。		
研究	0.45	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 豊橋技術科学大学知識情報工学科との共同研究を進める。 東京医科歯科大学難地疾患研究所との共同研究を進める。			0.45	研究成果をまとめて3、第93回日本生理学会で発表した。 豊橋技術科学大学知識情報工学科と共同研究を9,12月に行った。 東京医科歯科大学情報部と実験解析プログラム改良を議論した。		
社会 貢献	0.05	学会誌の査読委員として学会活動に貢献する。 沖縄県体育協会行事の運営に競技審判員として貢献する。			0.05	岩手国体に山岳成人男子の監督として貢献した。 沖縄山岳連盟の開催する競技会に競技委員長として貢献した。		
管理 運営	0.05	委員会委員として運営に貢献する。			0.05	大学入試センター試験運営に主任監督者として貢献した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		梁 運飛	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(生理学の実習)を担当し、学生の実習を丁寧に指導する。去年の実習に現れた問題により、実習書を直し、実習講義及び実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。		0.40	去年の実習に現れた問題により、実習用テキストを改定し、今年度の学部学生の電気生理学実習は去年度よりかなり順調になった。実習に関する教育目標を達成した。	
研究	0.50	1、沖縄にある亜健康(未病)研究所と連携し糖尿病などの生活習慣病に関する共同研究を行う。2、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。		0.50	研究成果①「Molecular Hydrogen Medical Researches and Health Effects of Hydrogen Water」を「Natural Medicine Digest」にて掲載された。②「Detection and Intervention of Ultra-early Tumor - Application of Natural Medicine in Early Tumor」を[World Natural Medicine Forum 2016]にて発表した。③「Early Detection and Intervention of Tumor」を[Health Forum of Guangxi Science and Technology Association 2016]にて発表した。④研究成果「Tumor-associated Gene mRNA Expression Examination Used in Sub-health Inspection and Intervention」を「The 7th Annual Conference of World Sub-health Association」にて発表した。	
社会 貢献	0.05	続けてボランティアで日曜日の沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。		0.05	ボランティアで世話人として毎月の第一の日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。	
管理 運営	0.05	大学センター試験及び二次試験の監督関連業務等に積極的に参加する。		0.05	大学センター試験と本学の二次試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		村山 貞之	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	卒前教育:毎週のポリクリ、クリクラ時の教育、M3, 4に対する放射線医学の講義 卒後教育:毎週の放射線科の症例検討会 逐次の専門修練医の教育。M4-M6学生に対してポリクリ時、クリクラ時に進路指導を行う。担当指導教官として指導を行う。		0.10	ポリクリ学生に対して昼食会を行い、進路指導を行っている。充分、目標を達成した。	
研究	0.20	肺癌、感染症、呼吸機能、救急放射線に関する画像診断の研究を進める。320列CTを用いた多施設研究(共同研究で今年度は去年の二倍の資金を獲得済み)、cine MRIによる肺高血圧症の診断(今年度から3年間の文部科研費基盤研究(C)を獲得済み)、肺がんのPET、Cthistogramによる予後予測に力を入れる。PETの新しい核種を用いた臨床研究を進める。		0.20	十分に目標を達成した。加えて、320列CTを用いた低線量胸部CT画像の多施設研究において、リーダーシップを発揮した。	
社会貢献	0.10	県内、県外施設に必要な放射線科医の派遣を行う。日本医学放射線学会理事、呼吸機能イメージング研究会代表、NPO胸部放射線研究機構理事などの学会活動の職務を全うする。		0.10	十分に目標を達成した。	
管理運営	0.50	講座長、放射線科長、放射線部長としての管理業務を指揮する。		0.50	十分に目標を達成した。	
診療	0.10	PET/CTの読影を行う。専門研修医の単純X線写真の画像診断レポートのチェックを行う。		0.10	十分に目標を達成した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	戸板 孝文		所 属	医学研究科 放射線診断治療学講座	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	系統講義等で悪性腫瘍の集学的治療における放射線治療の役割と重要性を系統的に理解させる。臨床実習で、IMRT、IGBT、SRT等高精度放射線治療の治療計画立案に参加させ、放射線治療の魅力を実感させる。以上により放射線腫瘍医を志す学生、研修医を育成する。倫理討論会チューター(テーマ:がん臨床試験)九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのコーディネータとして県内のがん教育特に放射線腫瘍学の活性化を進めるとともに、特に九州大学との教育連携を進める。大学院生(2名)の教育指導を行い研究論文作成を指導する。5年次学生指導教官。	0.20	系統講義を3コマ(放射線医学、総合講義)を行った。臨床実習(ポリクリ、クリクラ)にて、放射線治療外来実習、計画実習を担当するとともに、がん集学的治療におけるエビデンスに基づく治療方針立案のプロセスを学習させ、討論に参加させた。医の倫理討論講師を担当し、がん臨床研究をテーマに討論を行なった。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの本学担当のコーディネータとして、セミナー/講習会を開催した(3件)。九州大学との連携プログラムを継続した。九州がんプロ全体研修会(長崎)に本学大学院生2名とともに参加した。学会等で教育講演を実施した(4件)。大学院生(3名)の教育指導を行い、1名が学位を取得し、1名の研究論文作成の指導中である。医学部5年生指導教官として学習生活指導を実施した。日本放射線腫瘍学会(JASTRO)の第28回医学生・研修医のための放射線治療セミナーに指導医として参加し、本学から2名の学生を受講させた。	
研究	0.30	国際英文誌への論文投稿(1編以上)。文部科学省科学研究費の獲得、厚生労働省研究班への班員としての継続参加による配分研究費獲得。沖縄県研究費の獲得。多施設共同試験への研究事務局としての継続参加(JCOG、JGOG)、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法JCOG多施設臨床試験の立ち上げ(研究代表者)。子宮頸癌に対するIGBTの臨床試験(院内)への臨床例の集積。AMED研究費申請準備開始。	0.30	国際英文雑誌へ原著論文掲載(5件)文部科学省科学研究費(基盤研究C)獲得、厚生労働省研究班への班員として配分研究費獲得(4件)。「沖縄県の健康長寿復興を目指した疾患ゲノム研究とゲノム研究人材育成」研究班の研究分担者として、県内の高精度放射線治療開発と推進を進めた。JCOG全国多施設共同試験への研究事務局としての継続参加(JCOG1101)、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法JCOG多施設臨床試験(JCOG1402)の研究代表者として立ち上げた(12月にAMED申請、1月プロトコル承認)。子宮頸癌に対するIGBTの臨床試験(院内)への臨床例の集積を終了し、経過観察を行った。	
社会 貢献	0.20	専門学会(日本放射線腫瘍学会)ガイドライン作成作業(小委員長)。沖縄県クラスター事業と文科省がんプロ事業の支援を得て、放射線治療の講習会開催(医師、技師、看護師対象)。学会の健保委員として腔内照射管理料毎回算定に向けた作業を実施。他施設からの放射線治療部門見学の積極的受け入れ。企業治験コンサルタント(ゼリア製薬、中外製薬、エレクタ株式会社)。	0.20	専門学会(日本放射線腫瘍学会JASTRO、日本婦人科腫瘍学会)ガイドライン作成作業(放射線治療計画ガイドライン小委員長、子宮頸癌治療ガイドライン・子宮体癌治療ガイドライン作成委員、mHDRガイダンス作成委員)。沖縄県事業と文科省がんプロ事業の支援を得て、放射線治療の講習会及びセミナー開催(医師、技師、看護師対象:計5件)、市民向け講演会(前立腺がんの放射線治療)開催。重粒子線治療多施設共同臨床研究(J-CROS)班の活動に参画。日本放射線腫瘍学会の健保委員としてIGBTの保険点数増点に向けた作業、放射線治療推進委員会委員として医学生点検研修セミナー参加およびレジンビ展(責任者)。第10回JGOG教育セミナーに指導医として参加。企業治験コンサルタント/アドバイザー(ゼリア製薬、中外製薬、エレクタ株式会社)。JCOG放射線治療委員会委員、JGOG理事・放射線治療委員会委員長、JASTRO代議員、小線源治療部会常任幹事、高精度放射線外部照射部会幹事、JROSG理事・婦人科腫瘍委員会委員長。	
管理 運営	0.20	放射線部放射線治療部門チーフとして現場の安全管理とマネージメント、院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムの本学コーディネータ、臨床研究支援センター副センター長	0.20	放射線部放射線治療部門チーフとして現場の安全管理とマネージメントを実施した。院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員を務めた。九州がんプロフェッショナルプログラムの本学コーディネータを務めた。臨床研究支援センター副センター長として、院内の治療・臨床試験の研究支援のマネージメントを実施した。	
診療	0.10	放射線治療外来(週1日)を引き続き担当。放射線治療計画の最終チェック、腔内照射、治療現場の安全管理とマネージメントを主に行う。	0.10	放射線治療外来(週1日)を引き続き担当。放射線治療計画の最終チェック(承認)、腔内照射、治療現場の安全管理とマネージメントを実施した。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		垣花 泰政	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	大学院生の研究指導		0.20	学生の指導(修士学位取得)	
研究	0.25	関連学会発表、論文発表		0.20	論文執筆	
社会貢献	0.10	関連学会委員会委員		0.40	112回医学物理学会を開催(会長)	
管理運営	0.10	放射線安全委員会委員		0.10	放射線安全委員会	
病院業務	0.30	放射線治療治療関連業務		0.10	放射線治療の検証関連	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		椿本(渕上) 真穂	所 属		大学院医学研究科 放射線診断治療学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	学生の読影を少人数でレビューする時間を確保する		0.10	週に1回学生へのレクチャーを行った
研究	0.20	研究に精力的、継続的に取り組み、科研費の獲得を目指す		0.10	研究を継続的に行うことができた
社会 貢献	0.10	地域医療の向上に取り組む		0.00	地域医療にかかわる機会は少なかった
管理 運営	0.00	立場上、管理運営の機会は少ないと思われる。		0.00	立場上、管理運営の機会は少ないと思われる。
診療	0.50	高度医療の担い手として効率的・正確な医療を目指す		0.80	日常診療に追われ、診療に割かなくてはならない時間が多かった。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		外間 洋平	所 属		医学部 脳神経外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	クリニカルクラークシップ参加者を対象にマイクロ顕微鏡実習を行う。 医学科3年次を対象に臨床解剖学講義を行う。			0.20	クリニカルクラークシップ参加者を対象にマイクロ顕微鏡実習を行った。 医学科3年次を対象に臨床解剖学講義を行った。		
研究	0.20	放射線療法による脳損傷に対する高気圧酸素療法、内服治療の有用性について、diffusion tensor imagesを用いて脳白質繊維束の状態を定量評価し、解析し研究する。			0.20	放射線療法による脳損傷に対する高気圧酸素療法、内服治療の有用性について、diffusion tensor imagesを用いて脳白質繊維束の状態を定量評価し、解析し研究した。研究を進めている。		
社会貢献	0.20	diffusion tensor images等の脳機能画像を用いた研究を行い、論文作成及び学会発表を行う。			0.20	diffusion tensor images等の脳機能画像を用いた研究を行い、論文作成を行っている。学会発表はまだ行っていない。		
管理運営	0.20	輸血療法委員会に参加する。			0.20	輸血療法委員会に参加した。		
診療	0.20	外来・病棟診療活動を行い、安全で適切な手術療法を推進する。手術室及び脳外科病棟の安全性を高めるための講習会を開催する。			0.20	外来・病棟診療活動を行い、安全で適切な手術療法を推進した。手術室及び脳外科病棟の安全性を高めるための講習会はまだ行っていない。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		西村 正彦	所 属		医学部 脳神経外科
			職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	「神経科学トピックス」、ポリクリ実習での「ニューロリハビリテーション」の演習・講義を行う。機能的磁気共鳴画像に関する基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行う。		0.25	座学では「神経科学トピックス」を担当し、ポリクリ実習生に対しては「ニューロリハビリテーション演習・講義」を担当した。M3年生基礎医学実習にて機能的MRI、ロボットスーツHALによるニューロリハビリテーションに関する基礎実習を担当した。OSCE模擬患者として医学教育に参画した。
研究	0.35	科研費基盤(C)「ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究」を推進する。経頭蓋直接電流刺激に関する研究及び機能的MRI、高密度(256ch)脳波計を用いた高次脳機能障害の治療的有効性についてデータ収集、データ解析を行う。		0.35	科研費基盤(C)「ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究」を推進し、ロボットスーツHALによる歩行トレーニングの予後予測に関する論文の投稿準備を進めている。経頭蓋直接電流刺激に関する研究及び機能的MRI、高密度(256ch)脳波計を用いた高次脳機能障害の治療的有効性についてデータ収集、データ解析を担当した。第50回日本作業療法学会にて「ロボットスーツによる機能訓練は歩行機能の改善に寄与する」を口述発表した。
社会貢献	0.10	浦添市障害者介護給付費等審査委員として、審査会に参画する。沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として授業を実施予定。		0.10	浦添市障害者介護給付費等審査委員として、浦添市障害者介護給付費等審査会に出席した。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業を担当した。沖縄県医師会脳神経分科会の事務局担当として脳神経分科会の運営補助を行った。沖縄県作業療法士会の新人作業療法士を対象にした研修会の講師を担当した。大道小学校学習アドバイザーに就任し、子どもの居場所づくり事業に参画した。
管理運営	0.10	リハビリテーション連絡委員を担当し、附属病院の診療環境の向上に貢献する。		0.10	リハビリテーション連絡委員を担当した。センター試験監督を担当した。
診療	0.20	作業療法士として脳疾患患者の運動機能回復訓練を担当する。機能的MRIでの脳活動計測、電気生理学的神経機能モニタリングを担当する。		0.20	脳疾患患者に対してロボットスーツHALでの運動機能回復訓練を実施した。慢性疼痛患者、高次脳機能障害患者に対し、経頭蓋直接電気刺激(tDCS)を用いた治療を担当した。術前検査としての運動機能、言語機能、記憶機能に関わる脳機能計測として機能的MRIを駆使し、患者の脳機能マッピングを実施した。また、術中神経機能モニタリングを担当した。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片桐 千秋	所 属	医学研究科 脳神経外科学講座	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	大学院生の研究計画および遂行、実験技術、学会発表等の指導。基礎配属実験にくる学生の他、基礎研究への興味ある学部学生に対しよりよい提案を行う。		0.25	基礎配属実験の計画および遂行を行った。大学院生、学部学生、研修医に基礎実験の技術指導および研究(臨床研究含む)の方向性について助言を随時行った。大学院生および学部学生の学会発表に向けて指導し、付き添った。	
研究	0.65	脳腫瘍cDNAライブラリーを過去に遡り充実させ、発現量解析を行うことで腫瘍特異的な遺伝子探索を行う。腫瘍細胞の高気圧酸素による放射線感受性増感作用に関連した遺伝子DPTのTet-ON高発現細胞株の構築。TRPM7マウスの脂質異常および免疫応答への影響を生化学的に解析。		0.60	脳腫瘍cDNAライブラリーはグリオブラストーマ以外のグレードの腫瘍にも着手し種々の腫瘍マーカーによる検証を行った。高気圧酸素による放射線感受性増感作用に関連する遺伝子DPTのTet-on高発現細胞株を構築した。TRPM7ノックインマウスにおける免疫応答についてMAPKキナーゼに関与していることが示唆された。	
社会貢献	0.10	自身の研究で得られた成果を学会等で報告する。		0.10	指導していた大学院生の研究が論文となった。研究の成果を日本分子生物学会、日本生理学会、国際放射線神経生物学会にて発表し、さらに新たな知見を得て自身の研究や学生等への教育に貢献している。	
管理運営	0.05	動物実験施設内にある当講座が管理する行動解析室、および電気生理学的解析を行う部屋の管理を引き続き行う。		0.05	医局実験室の物品管理、動物実験施設内にある当講座が管理する行動解析室、および電気生理学的解析を行う部屋を管理し、さらなる機材の導入に向けて準備した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		知念安紹	所 属	医学部 育成医学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.17	M3学生の講義(遺伝先天代謝異常)、各種試験問題作成と管理、倫理討論会の指導者、OSCE医療面接の試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導と講義、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、臨床遺伝専門医の研修の医師指導、ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学5年生の指導教官としての役割		0.10	M3・M4学生の講義(遺伝先天代謝異常・小児症候学)、テスト問題作成、OSCE医療面接試験監督、倫理討論会での学生指導、病棟におけるポリクリ学生、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。遺伝カウンセリング研修の医師(産婦人科1名、小児科1名、耳鼻科1名)の指導を実施している。	
研究	0.25	ムコ多糖症におけるイソフラボン治療の効果、出生前診断における羊水培養、沖縄県の新生児タンデムマススクリーニングによる有機酸代謝異常・脂肪酸代謝異常症の疾患予防について、環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の詳細調査		0.25	新生児タンデムマス・スクリーニングを沖縄県で開始し、県医師会で報告および論文として受諾された。Fabry病の新生児スクリーニングの結果報告を論文Human Genome Variationに受諾された。イソ吉草酸血症のグリシン効果については論文投稿中である。羊水細胞の培養に成功した。環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の詳細調査を行い、運営会議で発表している。	
社会 貢献	0.03	新生児マススクリーニングにてタンデムマス・スクリーニングを沖縄県に導入し支援体制を構築すること、Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動		0.10	新生児マススクリーニングにてタンデムマス・スクリーニングの体制として中部地区医師会とともに管理している。全国組織のムコ多糖症の親の会に対するサポート活動や全国組織Fabry病ふくろうの会の沖縄県開催での発表およびサポート	
管理 運営	0.05	病院運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議、当講座における教授関連仕事の代行		0.10	病院運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議、当講座における教授関連仕事の代行	
診療	0.50	新患・先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。		0.45	先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浜田 和弥	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.15	医学部講義(小児アレルギー), 研修医・学生向けレクチャーの定期的な実施		0.15	医学部講義(症にアレルギー), 研修医講義, 定期的な学生向けレクチャー	
研究	0.15	臨床研究, 並びに症例報告などの論文執筆, 各種学会参加・学会発表の積極的な実施		0.15	臨床研究, リウマチ関連学会・アレルギー関連学会への参加, 発表. 臨床研究	
社会 貢献	0.10	学外講義, 学校, 乳児健診などへの参加		0.10	学外講義, 学校・乳児健診業務	
管理 運営	0.10	救急部運営委員会, 医療機器安全管理専門委員会, 児童虐待防止委員会		0.05	救急部運営委員会, 医療機器安全管理専門委員会, 児童虐待防止委員会, 医療機器用策定会議	
診療	0.50	附属病院小児科外来診療, 入院患者診療		0.55	附属病院外来診療, 入院患者診療, 当直(月7回程度)業務など	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 紀子	所 属	医学部 医学科 育成医学講座(小児科)	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目(免疫、小児膠原病)を担当し、系統講義、ポリクリ学生に対してベッドサイドティーチング等を行う。初期研修・後期研修医への研修指導を行う。		0.30	系統講義およびベッドサイド実習等において学生指導を行い、小児科学一般と小児リウマチ・膠原病について、講義および指導をおこなった。	
研究	0.30	小児膠原病に関する臨床研究を行い、積極的に学会発表を行い、論文採択をめざし研究論文を作成する。また、治験への参加し最新の治療に関しての評価を行う。難治性小児リウマチ性疾患の多施設共同研究に参加する。		0.30	小児膠原病の難治性病態の解明のため、その診断および新しい治療について、多施設と共同研究を行い、その結果について研究会や学会で発表した。また、論文投稿する予定である。	
社会貢献	0.20	小児膠原病に関する診断・治療に関して、リウマチ専門医として一般小児科医へ啓蒙のため、諸研究会で講演を行う。また、各保健所において、地域の患者さんと家族に対して、疾患に対する基礎知識や療養の相談を受けるための教育講演を行う。		0.20	他病院の小児科後期研修医に対して、専門外来(小児リウマチ膠原病外来)での研修を指導し小児リウマチ膠原病の知識の普及に努めた。第1回患者家族会を主催し、当院小児リウマチ膠原病外来通院中の患者家族約70人に対して、外部より講師を招聘し特別講演会を行った。	
管理運営	0.10	各委員会の委員として、積極的に討議に参加し病院内の管理運営に携わる。さらに、委員会での決定事項を医局員への情報の伝達し、現場で確実に実行されるように指導する。		0.15	感染対策の実務者として感染対策委員会へ参加し、その知識の獲得と小児科病棟における感染予防の啓蒙に努めた。平成28年10月より、医局長として、小児科医局運営が円滑に行われ右よう努めた。	
診療	0.10	市中小児科での一般診療を通して、情報の収集と診療技術の向上をめざす		0.05	市中病院で診療を行う事によって、大学で経験する事の少ない疾患の情報を得る事ができた。また、他病院の小児科医師との情報交換を行う事ができた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木 幹男	所 属		医学部 医学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学生の系統講義, 倫理討論を担当する。ポリクリニック, クリニカルクラークシップで学生教育を行う。OSCE担当教官として全体のとりまとめを行う。学位指導を行い, 博士論文が完成するように指導する。			0.20	左記に積極的に取り組み学位指導も行った。		
研究	0.20	科研費を用いた頭頸部癌の研究を行う。また, 次年度の科研費に応募する。			0.20	研究を実施し, また科研費へも応募した。		
社会貢献	0.10	沖縄県地方部会長, 頭頸部外科学会理事など役職に応じた活動を行い, 公益に寄与する。			0.10	左記に加え, 気管食道科学会理事として活動した。		
管理運営	0.10	副病院長として病院経営に尽力する。各種委員会委員, 委員長として大学, 医学部, 附属病院の各所で機能向上に寄与する。			0.10	病院経営改善に取り組み, 成果を得た。さらに各種委員会委員, 委員長として管理運営に取り組み成果を挙げた。		
診療	0.40	診療科長として, 十分な診療実績があげれるようにする。			0.40	診療科長として, 安全に多数の症例の治療を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真栄田裕行	所 属		大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察、検査、手術手技等の実技指導 当科所属の専修医、専門医に対する臨床実技指導、あるいは大学院生に対する実験、研究指導、または医局員に対する総合的指導			0.30	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察、検査、手術手技等の実技指導 当科所属の専修医、専門医に対する臨床実技指導、あるいは大学院生に対する実験、研究指導、または医局員に対する総合的指導		
研究	0.35	低酸素環境下における癌生物学的特質の変化に関する研究 頭蓋底疾患に対する手術手技の修練 外部資金の獲得 学会発表および学術誌への投稿			0.10	低酸素環境下における癌生物学的特質の変化に関する研究 頭蓋底疾患に対する手術手技の修練 外部資金の獲得 学会発表および学術誌への投稿		
社会 貢献	0.05	社会一般を対象とした講演や相談会			0.00	社会一般を対象とした講演や相談会		
管理 運営	0.10	准教授としての医局運営、管理 電子カルテ委員、医療情報システム医員としての活動			0.30	准教授としての医局運営、管理 電子カルテ委員、医療情報システム医員としての活動		
診療	0.30	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島医療推進に関するプロジェクト			0.30	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島医療推進に関するプロジェクト		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平川 仁	所 属		大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわっていく。			0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわることができた。		
研究	0.20	主に頭頸部外科の研究を行っていく。科研費獲得に向け研究を進めていく。			0.20	主に頭頸部外科の研究をすすめることができた。		
社会貢献	0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献できるものと考えている。			0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献を行うことができた。		
管理運営	0.10	病院管理、運営に積極的にかかわっていく。			0.10	病院管理、運営に積極的にかかわることができた。		
診療	0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行っていく。			0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行うことができた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山下 懐	所 属		大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたる。		0.10	臨床実習の指導を行った。			
研究	0.30	症例報告や統計、基礎研究など学会での報告、論文発表を行う。		0.30	日耳鼻総会、鼻科学会で発表。American Journal of Rhinology & Allergyに論文発表。			
社会 貢献	0.05	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高める。		0.05	耳の日、鼻の日講演会へ参加した。			
管理 運営	0.05	入試関連業務などへの参加。		0.05	OSCEに参加した。			
診療	0.50	外来、手術など診療活動。		0.50	外来、手術などの診療活動に従事した。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	池上 太郎		所 属	大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.23	大学院生への研究指導およびサポートを積極的に行う。		0.30	大学院生の各研究テーマに応じて研究指導およびサポートを行った。また医学部医学科の学部3年生の医科学研究を担当し、学生にテーマを与え、医学研究に必要となる科学的な考え方および研究手法を学べるように努めた。そのうち1名は論文にできるだけの結果を出し、現在論文作成を行っている。		
研究	0.70	耳鼻科領域、特に頭頸部がんの研究を推進し、論文および学会発表を行う。現在、科学研究費補助金は挑戦的萌芽研究を獲得しているが、今年は若手Aの獲得を目指す。		0.60	第一著者で原著論文を1本投稿した。また共著で国内学会で発表した。科学研究費補助金若手Aに応募した。平成28年度生命科学財団に共同で応募し、助成金を獲得した。		
社会貢献	0.05	研究で発見したことは速やかに公表し、また講演会などを通して社会還元する。		0.05	鼻の日に鼻に関わる病気の市民講座のお手伝いをした。また静岡大学教育学部附属静岡中学校からの依頼で、第18回夢講座において、「科学の最先端をのぞく:ガンはなぜできるのか?」というタイトルで講演会を行った。		
管理運営	0.02	委員会委員への参加。		0.05	センター試験監督委員を担当し、参加した。教室の研究部門の管理を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名前		近藤 毅		所属	医学研究科	職名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2. 医学研究科学生に対し、精神病態医学、心身医学、社会医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。			0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系2コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・医学概論・TBL各1コマを担当し、臨床実習では総括を行った。 2. 医学研究科大学院生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として5名の研究指導を行っている。また、社会医学概論、情報医科学概論のコーディネーターを担当した。	
研究	0.25	1. 専門領域である精神薬理学的研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2. 臨床精神医学の一般領域における研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。			0.25	1. 精神薬理領域の英文原著4編の作成に関与し、同領域の英文総説を1編公表した。また、成果を日本臨床精神神経学会にて発表した。 2. 九州精神神経学会を主宰し会長講演を行い、総説を九州精神神経学雑誌に寄稿した。また、日本薬物脳波学会における教育講演を行った。 3. 研究費を獲得した基盤研究Cを年度計画に基づき実行し、一部の成果を公表した。	
社会 貢献	0.10	1. 精神疾患に対する偏見の改善や認識の向上に向けた啓発活動を実践する。 2. 専門家として、学外の委員会への参加を要請された場合に、委員として要請に応える			0.10	1. 自殺予防活動として、一般医(那覇市医師会)や多職種(中部福祉保健所)への教育・啓発活動の支援を行い、沖縄県自殺対策連絡協議会・沖縄県発達障害連絡協議会、沖縄県いじめ防止対策審議会の委員を務めた。 2. 沖縄科学技術大学院大学人対象研究審査委員会委員長を務めた 3. 平成26年11月に日本臨床精神神経薬理学会理事長に就任した。	
管理 運営	0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行う。			0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。 2. 平成28年6月より、医学部附属病院内に基幹型認知症患者医療センターを立ち上げ、センター長に就任した。	
診療	0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、初期・後期臨床研修医の診療力の向上を図る。			0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科では心身症を中心とした患者の診療を行った。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	三原一雄		所 属	医学部 医学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	1)学生・研修医が精神科的視点を持った診療を理解できるようにする 2)教育連絡主任会議に参画しTBLなどの新たな手法で教育を行う 3)OSCEの医療面接に副責任者として参画する 4)研究内容を教材として用い、教育に反映させる		0.30	1)学生・初期研修医に予診を振り分け本診の陪席させ、精神科診療を理解を深められるように試みた 2)博士課程の大学院生を対象に情報医科学概論の講義を行った 3)OSCE医療面接の副責任者として、標準患者育成の中心的役割を果たすなど積極的に参画した 4)および5)学生・初期研修医が精神科に興味を持つように研究内容を紹介した		
研究	0.15	1)地方会および全国学会での報告発表に貢献する 2)海外の学術誌へ論文の投稿を行う 3)学会賞あるいは研究費の獲得を目指す 4)地方会の事務局長として学会を実りある形に運営する		0.15	1)研究グループのリーダーとして全国学会3題の研究発表に関わった 2)全国学会のシンポジストは担当しなかった。 3)論文2編を国外の英文雑誌に投稿し、受理された 4)学会賞・研究助成金は獲得できなかった		
社会貢献	0.10	1)児童扶養手当法に関する審査業務の認定医として参画する		0.10	1)児童扶養手当法に関する認定医として、毎月2回の認定を行った		
管理運営	0.10	1)材料部委員会・医療品安全管理専門委員会などの院内委員会に携わる 2)医師キャリアセンターのセンター員として研修医のメンタルヘルスサポートを行う 3)安全衛生委員会のカウンセラーとして職員の安全と健康の維持・増進に努める		0.10	1)医療材料検討委員会、救急部運営委員会、医薬品安全管理専門委員会、がんセンターボード運営委員に携わった。 2)卒後キャリアセンター員として、研修医のメンタルヘルスサポートを行った。 3)カウンセラーとして安全衛生委員会に携わった。		
診療	0.35	1)弁証法的行動療法などの新たな診療技術および治療技法の習得に努める 2)精神保健指定医として隔離・拘束等による患者の行動制限の最小化に努める 3)新たな精神保健指定医の教育・育成に努める		0.35	1)難治性統合失調症を対象とした抗精神病薬使用に関するシステム構築に努めた。 2)精神保健指定医として休日・夜間でも病棟からのコールに応じ、行動制限最小化委員会に所属し入院患者の行動制限の最小化に努めた		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		島袋盛洋	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行う		0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行った。	
研究	0.10	児童精神医学領域において、症例報告および観察研究を行い、成果を学会等にて発表する		0.00	実績なし	
社会 貢献	0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して 精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行う		0.10	那覇市主催の自殺予防ゲートキーパー講習会で合計4回講義を行った。また子供シェルターボランティア養成講義でも講義を行った。また地域の困難事例についての対応協議会の講師として助言を行った。	
管理 運営	0.10	所属診療科において医局長として診療科長の指導監督の元で診療科の管理運営を行う		0.20	医局長業務を1年間行った。	
診療 業務	0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行う。		0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		甲田 宗良	所 属		医学研究科 精神病態医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医、医学部学生に対する心理カウンセリング、心理検査等の講義、教育を担当する。</li> <li>・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行う。</li> <li>・病棟看護師等、コメディカルに対する精神療法、面接技法の指導・助言を行う。</li> <li>・研修医、医学部学生および心理実習生に対する進路指導・助言を行う。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医、医学部学生に対する心理療法、心理検査の講義、教育を担当した。</li> <li>・講座内の勉強会・事例検討会を企画・運営した。</li> <li>・総合講義にて、「自殺予防」の講義(1コマ)を担当した。</li> <li>・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行った。</li> <li>・保健学科の「臨床心理学」の講義(2コマ)を担当した。</li> <li>・「M3医学科学研究」を担当し、論文抄読、データ解析の指導を行った。</li> </ul>		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)に応募を計画している。</li> <li>・複数の民間研究財団等の助成金申請を計画している(すでに1件申請、2件申請予定)。</li> <li>・平成28年度中に英文誌に筆頭1本投稿・受理、共著1本投稿・受理、国内誌に筆頭1本投稿・受理、共著1本投稿・受理を目指す。</li> <li>・平成28年度中に学会発表を4回行う。</li> <li>・講座内の研究計画立案、統計解析、プレゼンテーションスキル向上のための研修を行う。※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(若手B)に応募した。</li> <li>・平成28年度琉球大学若手研究者支援研究費の交付が決定した。</li> <li>・国内の研究財団の助成金申請を2件行った。</li> <li>・平成28年度中に、第1著者の英文1本を執筆し、まもなく投稿予定である。第2著者の英文1本の執筆・解析を担当し、英文誌へ投稿中である。第2著者の和文1本の執筆を担当し、国内誌に投稿中である。その他、第3著者以降の英文1本が掲載、英文1本を投稿中である。</li> <li>・平成28年度中に学会発表を4回行った(国際心理学会、日本認知・行動療法学会、日本認知療法・認知行動療法学会、九州精神神経学会、九州臨床心理学会)。</li> <li>・講座内の2件の臨床研究において、心理検査の施行、データ入力、解析を担当した。</li> <li>・その他、講座内の大学院生の学位論文の統計解析の指導・補助を担当した。</li> </ul>		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民および医療・心理専門職に対する心理カウンセリングおよび精神疾患に関する啓発活動を行う。</li> <li>・企業、行政機関を対象にメンタルヘルス相談活動・研修を延べ20件行う。</li> </ul>			0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度は、平成29年1月18日(水)時点において、16件の講演・研修(メンタルヘルス、自殺予防対策)を行った(行政機関、保健所、警察、学校)。今後、平成29年3月31日(火)までにさらに4件を担当する予定である。</li> <li>・沖縄県臨床心理士会の活動の一環で、平成28年熊本地震の支援活動のコーディネーターを担当した(熊本派遣3回、東京での会議1回)。</li> </ul>		
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属診療科において、外来および病棟の管理運営の補助を行う。</li> <li>・所属診療科における研究活動支援の管理運営を行う。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属診療科において、外来および病棟の管理運営の補助を行った。</li> <li>・所属診療科内の定例の勉強会において、管理運営を行った。</li> <li>・センター試験の監督(2日目)を担当した。</li> </ul>		
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科外来および病棟において、診療補助(心理カウンセリング、心理検査、心理教育や家族教室、集団精神療法の運営)を行う。</li> <li>・平成28年度は延べ500名に対して支援を行うことを目指す。</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科外来および病棟において、診療補助(心理療法、心理検査、心理教育、集団精神療法の運営)を担当した。</li> <li>・平成28年度は、平成29年1月18日(水)時点において、延べ545名に対して支援を行った。</li> </ul>		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前田 士郎	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義について理解させる。1年生の教育担当学生について全員の全単位取得を目指す			0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義を伝えた。1年生の教育担当学生について1回懇談会を行った		
研究	0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金獲得を謀る。ヒトゲノム関連の研究成果を論文化する			0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金を獲得し、DNA血漿、健診情報からなる資源構築を開始した。ヒトゲノム関連の研究成果をPLoS OneおよびNature Genetics, 詩に発表した		
社会 貢献	0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙を謀り、将来の健康長寿社会構築の基盤を形成する。同時に円滑な検査輸血業務の遂行により地域医療への貢献に努める			0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙のためシンポジウムや各種講演会での講演を行った		
管理 運営	0.30	先進ゲノム検査医学講座教授としてまず人材獲得と研究環境整備に努める。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行う			0.30	先進ゲノム検査医学講座教授として准教授を採用し研究基盤整備をすすめた。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行った		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		今村 美菜子	所 属		医学研究科 先進ゲノム検査医学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M4-M5臨床検査医学ポリクリにおいて、基礎的な医学知識を習得させると同時に、最新の研究成果の紹介等により常に最先端の医学知識身につける姿勢を持てるよう指導する。1年次学生(10名)の指導教官として、学生生活全般におけるサポートを行う。			0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M4-M5臨床検査医学ポリクリでの指導、1年次学生(10名)の指導教官としての学生生活全般のサポートについては当初の目標どおり適切に指導を行えた。これらに加え、基礎配属(M3 3名)の学生の指導および、遺伝医学に興味をもち自主的に研究室を訪問した学部学生に対する研究指導も行った。		
研究	0.55	沖縄県におけるヒトゲノム研究を推進するための基盤づくりを行う。国内外の学会において最新の研究成果を報告する。現在進行中の基盤研究(C)について研究を継続する。臨床検査輸血部において、検査技師を中心とした研究の指導およびサポートを行う。			0.55	沖縄県のヒトゲノム解析拠点となる沖縄バイオインフォメーションバンクの構築に貢献した。最新の研究成果について海外での学会発表(2件)を行った。また検査輸血部では、抄読会や学会発表指導等を通じた研究の指導、サポートを行った。		
社会 貢献	0.05	講演活動を通じて最新のゲノム医学の成果を広く共有する。			0.05	日本糖尿病学会のシンポジウムおよび臨床医を対象とした研究会の招待講演などで最新のゲノム医学の成果と臨床応用について講演を行った。		
管理 運営	0.30	臨床検査輸血部において、検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助に携わる。リスクマネージャーとして附属病院、検査輸血部の安全管理を行う。			0.30	検査・輸血部においては、検査・輸血部部長およびリスクマネージャーとして検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助、安全管理に携わった。さらに、ISO15189 取得に向けた活動には検査室管理主体の一員として積極的に取り組んだ。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口 洋文	所 属		大学院医学研究科 再生医学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	シラバスに従って授業を行う。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行う。			0.20	発生再生医学の関してはオーガナイザーとしてシラバス作成、授業の実施、および本試験・再試験を実施した。それ以外の担当の授業は、シラバスに従って授業を行った。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行った。		
研究	0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行う。			0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を5報行った。日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行い、合計約5000万円の研究費を獲得した。		
社会 貢献	0.20	細胞培養加工施設(CPC)を使用した治療が行えるよう、臨床の先生の支援を行う。学会・論文発表を積極的に行い、研究内容を社会へ公開していく。			0.20	形成外科が細胞培養加工施設(CPC)を使用した治療を3例実施し、我々は「品質管理者」として細胞培養の管理を行った。また、第一内科が計画している再生医療の支援を行った。学会・論文発表を積極的に行った。		
管理 運営	0.30	各種委員会に定期的出席する。講座の管理運営を行う。再生医療研究センターのセンター長として、細胞培養加工施設(CPC)の管理運営を行う。			0.30	16種の委員会に所属し、定期的に出席した。今年度の計画通り、講座(教官2名、技術職員3名)および再生医療研究センター(技術職員2名)の管理運営を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		潮平 知佳	所 属		大学院医学研究科再生医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	当講座所属の医学科学生の講義およびその補佐、また学生への研究指導を行う。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をする。			0.20	当講座所属の医学科学生の講義およびその補佐、また学生への研究指導を行った。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をした。		
研究	0.60	日本学術振興財団の科学研究費基盤(C)主任研究およびその他基盤研究(B)および(C)の分担研究を行う。再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動を行う。英語論文の作成および発表を行う。学内外の研究機関との共同研究を行う。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加する。			0.60	日本学術振興財団の科学研究費基盤(C)主任研究およびその他基盤研究(B)および(C)の分担研究を行った。再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動を行った。英語論文の作成および発表を行った。学内外の研究機関との共同研究を行った。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加した。		
社会 貢献	0.10	産官学関連事業の推進への貢献。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献する。学会発表および学会誌への論文投稿を行う。			0.10	産官学関連事業の推進への貢献をした。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献した。学会発表および学会誌への論文投稿を行った。		
管理 運営	0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行う。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務。入試関連業務および各種委員会。			0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行った。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務を行った。入試関連業務および各種委員の役割を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中島 義基	所 属		大学院医学研究科 再生医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	シラバスに従って授業の補佐を行う。配属される学生の支援を行う。			0.20	発生再生医学に関しては本試験・再試験問題の作成、ならびに採点を実施した。医学英語に関してはシラバスに従い授業を分担した。基礎配属に関しては学生を受け持ち研究の支援を行った。		
研究	0.60	幹細胞を用いた研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費および民間の研究費募集に申請を行う。企業との共同研究を行う。			0.30	幹細胞を用いた研究、腓島移植に関する研究を行い、論文発表を3報予定している。日本学術振興会研究費、民間の研究費募集に申請を行い、合計約1000万円の研究費を獲得した。		
社会 貢献	0.20	学会・論文発表を積極的に行い、研究内容を社会へ公開していく。			0.20	幹細胞を用いた研究、腓島移植に関する研究を行い、学会発表を1報予定している。		
管理 運営	0.10	教室の管理・運営を行う。			0.30	講座(教官2名、技術職員3名)および再生医療研究センター(技術職員2名)をサポートし、教室の管理運営を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	高山 千利		所 属	医学部 医学研究科		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学研究科博士課程・修士課程の講義・演習を行い、医学研究科大学院生の教育を行い、研究をサポートする。</li> <li>・医学部医学科1年次、2年次の学生に対して、分子細胞生物学、組織学、神経解剖学、神経科学、発生学の講義・実習を行い、基礎医学力の向上に努める。</li> <li>・医学部3年次・4年次学生に基礎研究を指導し、研究者マインドの涵養に努める。</li> <li>・離島地域実習、学生による地域医療セミナー、学生PBL、県外地域医療実習、患者付き添い実習、体験学習を企画し、一部の企画では学生を引率する。そして、医学部学生、地域枠学生に沖縄県における地域医療の実体を体得させ、また、県外における取り組みを知り、将来の地域医療の担い手として必要な能力を涵養する。</li> <li>・2年次の指導教員として、学生10名の生活面・学業面を指導・監督する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学研究科の講義・演習および大学院生の教育を行った。</li> <li>・学部学生に対する講義・実習を予定通り行った。</li> <li>・担当する学生に対して生活・学習面の指導を行った。</li> </ul>		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士課程を単位取得退学した非常勤講師(2名)博士の取得まで指導する。</li> <li>・博士課程の学生(2名)の研究を指導し、今年度中に二人とも学会発表を行わせる。</li> <li>・ポスドク研究員、学振特別研究員、特命助教とともに研究を行い、その成果を全国集会以5回以上発表し、学位論文を含め、責任著者として学術論文を5報以上を受理させる。</li> <li>・准教授、助教の研究に助言を与え、論文の発表に協力する。</li> <li>・学内・学外の研究者と共同研究を進め、期間内に共著論文の作成に協力する。</li> <li>・講座として、10報の原著・総説論文を受理する。</li> <li>・文部科学省科学研究費補助金を申請する。</li> <li>・現在、沖縄県の知的クラスター形成事業を進展させるための大型研究費(内閣府)の申請を企画している。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文博士(博士過程単位取得退学者)1名の学生の学位論文が英文雑誌Neuroscienceに受理され、月の審査会を経て学位を受理される予定である。残り1名の学位論文作成のための指導を行っている。</li> <li>・2名の博士課程学生に対して、研究の指導を行い、それぞれ2回ずつ学術集会において発表した。</li> <li>・10報の論文が目標であったが、4報に留まってしまった。</li> <li>・新たに、沖縄県科学技術イノベーション事業への申請が受理された。</li> </ul>		
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人 沖縄県医科学財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に寄与する。</li> <li>・沖縄県地域医療協議会委員として沖縄県の地域医療に貢献する。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団の役割、県の委員会委員の職責を果たした。</li> </ul>		
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学科長として、厚生補導、教育に関する問題点を明らかにし、その改善に向けた新たな試みを企画する。個々に生じた問題を解決する。</li> <li>・医学科入試委員長として、よりよい学生を入学させるべく、様々な改革を行う。合わせて、高大接続に向けての道筋を付ける。</li> <li>・医学教育企画室長、カリキュラム委員長として、琉球大学の新しい医学教育カリキュラムを構築する。</li> <li>・分野別認証評価(通称:国際認証)検討委員会委員長として、琉球大学医学部医学科の自己点検評価表を完成させる。同時に、次年度の認証に向けての準備を進める。</li> <li>・積極的に問題(学業・精神面)を抱える学生への介入を行い、学力の向上、医師となるための技術の向上に努める。</li> <li>・国家試験合格率が95%を上回るように対策を講じる。</li> <li>・全学的な教育改革の取り組みに参画する。</li> <li>・医学部附属動物実験施設長(兼全学動物実験委員長)として組織の管理・運営・改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が進展し、多くの業績が出せるよう努める。前年度の業績を上回るよう努力する。</li> <li>・医学部・医学研究科教授会メンバー、医学部・医学研究科の管理運営に参加する。</li> <li>・学務委員会委員として、大学院修士課程、博士課程の入試に関与する。</li> <li>・グローバル教育支援機構委員として、琉球大学全体の教育レベルの向上に寄与する。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・学部レベルでの管理・運営を行った。</li> <li>・分野別認証に適合する新カリキュラムの道筋を付けることが出来た。</li> <li>・分野別認証評価に向けた取り組みを進行出来た。</li> <li>・国家試験の合格率が(新卒・既卒ともに)全国平均を僅かながら下回ってしまった。</li> <li>・長年の懸案であった動物実験施設の認証評価を受けた。</li> </ul>		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		岡部 明仁		所 属		医学研究科・分子解剖学講座		職 名		准教授	
領域		業務ウエイト比(予定)		平成28年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)		平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・学生支援		0.43		<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部第1学年次生に対して「分子細胞生物学」の一部の講義を行う(計4コマ)。</li> <li>医学部第1学年次生に対して「人体の構造と機能」の一部の講義・TBLを行う(計8コマ)。</li> <li>医学部第1学年次生に対して「神経科学」の講義・TBL・実習を行う(計21コマ)。</li> <li>医学部第1学年次生に対して組織学実習の一部を行い(計6コマ)、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行う(計9コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して神経解剖学の講義・実習を行う(合計13コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して医学外国語の講義を行う(計15コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して発生学の講義を行う(1コマ)。</li> <li>上記の担当した講義・実習について、定期試験及び再試験問題を作製し、試験監督を分担で行う。</li> <li>医学部第4学年次生に対し、基礎研究の指導を行う。</li> </ul>		0.42		<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部第1学年次生に対して「分子細胞生物学」の一部の講義を行った(計4コマ)。</li> <li>医学部第1学年次生に対して「人体の構造と機能」の一部の講義・TBLを行った(計8コマ)。</li> <li>TBLを補助教員の先生方とともに1回(3コマ)コントロールした。</li> <li>医学部第1学年次生に対して「神経科学」の講義・TBL・実習を行った(計21コマ)。</li> <li>医学部第1学年次生に対して組織学実習の一部を行い(計6コマ)、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行った(計9コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して神経解剖学の講義・実習を行った(合計13コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して医学外国語の講義を行った(計15コマ)。</li> <li>医学部第2学年次生に対して発生学の講義を行った(1コマ)。</li> <li>上記の担当した講義・実習について、定期試験及び再試験問題を作製し、試験監督を分担で行った。</li> <li>医学部第4学年次生に対し、夏休みから事前に基礎研究の指導を行い、海外の留学先へ送り出した(ドイツ連邦共和国、マインツ大学)。3月末まで渡航しているため、帰国次第、データのまとめを行う予定。</li> <li>H29年度医学科1年生の後期講義日程の割り振り案(人体の構造と機能、解剖学実習、組織学実習、神経科学など)を作製した。</li> </ul>			
研究		0.45		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者として科学研究費補助金基盤(C)「胎児期に完成する呼吸リズムにおけるGABAシナプスと細胞内Cl<sup>-</sup>濃度の発達変化」:平成28-30年度、計468万円)を獲得したので、これについて研究を行う。</li> <li>筆頭著者として日本生理学会で発表する。</li> <li>大学院博士課程の学生の研究指導を行う。</li> <li>本年度は原著論文2本の投稿を目指す。</li> </ul>		0.47		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者として科学研究費補助金基盤(C)「胎児期に完成する呼吸リズムにおけるGABAシナプスと細胞内Cl<sup>-</sup>濃度の発達変化」について、まずは正常発達過程の舌下神経核運動神経細胞のCl<sup>-</sup>濃度変化の検討を行った。また、この研究に用いる遺伝子改変動物の安定した供給方法を確立した。</li> <li>筆頭著者として「周産期舌下神経核運動ニューロンにおける細胞内Cl<sup>-</sup>濃度変化の検討」について第94回日本生理学会で発表した。</li> <li>共著者として「Wx/ae brown rice changed the expression of hepatic gene related to lipid metabolism to improve dyslipidemia.」について第94回日本生理学会で発表した。</li> <li>共著者として「マウス坐骨神経損傷モデルにおけるGABAシグナル関連分子の発現変化」について第18回沖縄県理学療法学会にて発表した。</li> <li>大学院博士課程の学生の研究指導を行った。その結果、共著者として原著論文「Distinct development of the glycinergic terminals in the ventral and dorsal horns of the mouse cervical spinal cord」がNeuroscience誌に受理された。</li> <li>責任著者として筆頭著者とともに現在論文1編を執筆している。</li> </ul>			
社会貢献		0.01		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本解剖学会及び日本生理学会評議員として両学会の発展に貢献する。</li> </ul>		0.00		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本解剖学会及び日本生理学会評議員として両学会の発展に貢献した。</li> </ul>			
管理運営		0.01		<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部及び附属病院交通対策委員</li> <li>極低温センター運営委員(2号委員)</li> <li>附属図書館医学部分館運営委員会委員</li> </ul>		0.01		<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部及び附属病院交通対策委員</li> <li>極低温センター運営委員(2号委員)(現:研究基盤センター運営委員)</li> <li>附属図書館医学部分館運営委員会委員</li> <li>大学入試センター試験試験監督</li> <li>H29年度入学選抜試験面接委員</li> </ul>			
その他		0.10		<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球リハビリテーション学院の昼間部理学療法学科及び作業療法学科の第1学年次生に対して非常勤講師として生物学および解剖学Iの講義を各15コマ(計30コマ)担当する。</li> <li>沖縄リハビリテーション福祉学院の夜間部理学療法学科及び作業療法学科の第1学年次生に対してにて非常勤講師として解剖学の一部の講義を10コマ行う。</li> <li>SOLA沖縄学園柔道整復師学科の第2学年次生に対して非常勤講師として生理学IIの講義を7コマ担当する。</li> <li>那覇看護学校、歯科衛生士学校、沖縄統合医療院の学生に対し、本学にて一般解剖の実習見学を行う。</li> <li>沖縄リハビリテーション福祉学院、琉球リハビリテーション学院、SOLA沖縄学園の第2学年次生に対して、本学にて神経解剖学・脳実習の実習見学を行う。</li> </ul>		0.10		<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球リハビリテーション学院の昼間部理学療法学科及び作業療法学科の第1学年次生に対して非常勤講師として生物学および解剖学Iの講義を各15コマ(計30コマ)担当した。また、これらの科目の認定試験及び再試験を行った。</li> <li>沖縄リハビリテーション福祉学院の夜間部理学療法学科及び作業療法学科の第1学年次生に対してにて非常勤講師として解剖学の一部の講義を10コマ行った。この担当分野に関する認定試験と再試験を行った。</li> <li>SOLA沖縄学園柔道整復師学科の第2学年次生に対して非常勤講師として生理学IIの講義を8コマ担当した。この分野に対しての認定試験及び再試験を行った。</li> <li>那覇看護学校、歯科衛生士学校、沖縄統合医療院、消防学校の学生に対し、本学にて一般解剖の実習見学を行った。</li> <li>沖縄リハビリテーション福祉学院、琉球リハビリテーション学院、SOLA沖縄学園の第2学年次生に対して、本学にて神経解剖学・脳実習の実習見学を行った。</li> </ul>			
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00		<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大倉信彦	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.60	昨年に引き続き、学部担当科目(分子細胞生物学, 人体の構造と機能, 組織学実習, 神経科学, 基礎研究)の講義と実習を分担する。変更されたカリキュラムに基づいて、教材の改良に努める。組織学実習に導入しているTBLを更に改良する。学士編入生と再試験受験者を対象に組織学の補講を行ない、組織学の習得を促す。			0.60	カリキュラム変更に伴い、講義実習の内容を大きく変更し、講義・実習を実施した。教材はオンライン学習システムにアップロードし、学生の自習の便を図った。人体の構造と機能においてTBLを実施した。組織学実習と人体の構造と機能における定期試験の問題を取りまとめる業務を担当した。		
研究	0.30	二型精子の研究を継続して行う。カワナ精子の雌生殖器官における動態を解析し、少なくとも学会発表を1回行う。人体解剖学分野との共同研究で、ホヤ卵の受精に関する研究における形態学的解析を分担する。細菌学講座のトーマ博士との共同研究を分担し、腎臓における感染性レプトスピラの動態を解析する。二型精子研究に関して、科学研究費申請を行う。			0.30	カワナ精子の研究を継続し、11月に沖縄コンベンションセンターで開催された、日本動物学会第87回大会で、演題を発表した。人体解剖学分野との共同研究と細菌学講座との共同研究を行い、後者は3月に仙台国際センターで開催される第90回日本細菌学会総会の演題に採択され、発表予定である。科学研究費の申請を行った。		
社会 貢献	0.10	地域のコメディカル教育(那覇看護専門学校)に協力する。「人体の構造と機能」の講義および解剖見学実習を通して、看護職の基盤教育に貢献したい。その他に、地域団体等からの要請があれば、一般市民を対象に、研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う。			0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能(解剖生理学)の講義を行い、また、実習見学を実施して、看護職の基盤教育に貢献した。11月に行われた日本動物学会87回大会の一般公開イベント「動物学ひろば」の会場責任者として、動物学を啓蒙するためのイベントの運営にあたり、一般向けの展示を出展した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 しおり	所 属		医学研究科	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>分子解剖学講座が担当する実習(組織学、神経解剖学、神経科学)にて医学部医学科学生に指導をおこなう。</li> </ul>		0.10	分子解剖学講座が担当する各実習の指導を行った。			
研究	0.90	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県知的・産業クラスター形成推進事業の研究をすすめる。</li> <li>神経の発達に関する研究をすすめる。</li> <li>上記の研究成果について、学術集会において1回以上発表し、原著論文1報以上作成し、投稿する。</li> </ul>		0.90	<p>沖縄県知的・産業クラスター形成推進事業の研究については、動物実験やPCRなどの実験を主に行い、その成果は共同著者として3月に学術集会で発表予定である。神経の発達に関する研究では、遺伝子改変動物の維持・管理を行い、それらの胎児脳における組織学的な解析について実験を行った。現在その成果を原著論文としてまとめている。その他、関連する複数の研究課題についても中心的に実験を行った。</p>			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		陣野吉廣	所 属	医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.48	1. 新しい講義の準備を間に合わせる。 2. 医学英語を通して英語になじませると同時に医学への関心を高める。		0.48	1. 講義・スライドとも準備が間に合った。 2. 精神医学に興味を持ってもらった。	
研究	0.50	1. 共著論文をアクセプトにこぎつける。 2. 新しい論文を書く。		0.50	1. 京都大学との共著論文をアクセプトまでこぎつけられなかった。 2. 論文までのあと一歩が遠い。	
社会 貢献	0.01	1. 学会発表を通して研究成果を学外に発信する。		0.01	1. 学会発表を通して研究成果を学外に発信した。	
管理 運営	0.01	1. 大学入試面接委員としての役割を果たす。		0.01	1. 2月と3月にその任を果たす。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)												
名 前		小田 高也		所 属		大学院医学研究科・ゲノム医科学講座		職 名		准教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果					
教育・ 学生 支援	0.10	<p>(学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28年度より新規に開講する医学科1年次対象専門教育科目「分子細胞生物学」への参加。昨年度まで担当した「生命科学」での経験を踏まえてWebClassを活用した効率の良い知識の習得を目指す。</li> <li>・2年次学生5名を対象とした医学外国語分担(5/30-7/11)。</li> <li>・5年次学生8名を対象とした倫理総合討論⑧班の指導(5/25-6/29)。</li> <li>・4年次基礎研究学生1~2名の受け入れ予定。</li> <li>・指導班(H26年入学生6名・留年生2名・2年次編入生1名)への対応およびH26年度指導班からの留年生4名のフォローアップ。</li> <li>・教育連絡主任および新カリキュラム編成委員としての医学科教育への貢献。</li> </ul> <p>(大学院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期にゲノム情報学特論およびゲノム医科学(特論(I)・演習・実習)を開講予定。</li> </ul>				0.15	<p>(学 部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・M1に対しては新規専門教育科目である「分子細胞生物学」の3コマを担当した。昨年度まで開講していた「生命科学」同様、WebClassを利用して講義前には講義資料の配付を、講義後には出席確認を兼ねた小テストの解説を含めた補足資料の提供およびアンケートを実施して次年度に向けた講義内容改善の資料とした。</li> <li>・2年次編入生6名に対して昨年度まで開講していた「生命科学」の単位のため認定試験を実施した。</li> <li>・主任教授と分担しているM2の医学外国語では7コマを担当し、実践的な英語力の獲得に努めた。学生との話し合いにより不定期な開講となったためか、特別な理由なく欠席する学生が目立った。次年度は定期的開講を心がける予定である。</li> <li>・M4の基礎研究では説明会に出席し、講座を代表してオリエンテーションをおこなったが、配属希望者はいなかった。</li> <li>・M5の倫理総合討論では例年通り5週間前より準備を開始した。班内ディベートが予定通り実施できないなど準備に若干の遅れが生じたが、担当メンバー個々の貢献により遅れを取り戻し有意義な開催となった。</li> <li>・医学科カリキュラム委員会および新カリキュラム編成委員会に参加し、新年度の医学科プログラムの編成に貢献した。</li> <li>・教育連絡主任として分野別認証に向けた卒業時コンピテンシー作成ワークショップに参加し、「科学的探求」班のまとめ役を担当した。</li> </ul> <p>(大学院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当講義へ履修登録した学生はいなかった。</li> </ul> <p>(学生支援1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後期の懇談会を通して担当学生と接し、履修指導をおこなうと共に課外活動を含めた生活状況の聞き取りなどおこない、個々の生活状況の把握に努めた。</li> <li>・今期より新たに担当することになった留年生1名は、年間を通して取得すべき単位が少ないため余った時間を有意義に使うように指導した。</li> </ul> <p>(学生支援2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度新たに担当したが、不登校となったため再度留年となった元担当学生に対して、現指導教員と協力して今年度での単位取得をめざした。しかし、前期のほとんどの科目で単位取得に至らず夏期休暇後に休学となった。次年度での復学を期待しつつ、保護者とも協力していく予定。</li> </ul>					
	研究	0.80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため、胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物の細胞内での機能を明らかにする。</li> <li>・H29年度『科学研究費補助金』の申請に向けて、細胞内で2種類存在する上記遺伝子転写物の細胞質および核内におけるそれぞれの役割を検証するための予備実験を行う。</li> </ul>				0.75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能性RNAとして注目している胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物は、胎盤絨毛における細胞融合モデルであるBeWo細胞がForskolinで処理された際に発現が亢進する。更に、Forskolinにより融合形成中のBeWo細胞群では、既知の細胞融合関連分子であるSyncytin-2と酷似した発現様式を示すことが分かってきた。現在、HML6-c14転写物がForskolin処理の下流に位置するPKAシグナル系のどこに関与するかを明らかにするべく実験を進めている。</li> </ul>				
	管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年度に発足した「ハラスメント相談支援センター」の相談員としてキャンパスにおける健全な環境維持に貢献する。</li> <li>・H27年度に引き続き疫学研究倫理審査委員会に2号委員として参加し、個人の尊厳と人権の尊重、倫理的ならびに科学的観点から学内の研究が適正に施行されるよう審査に参加する。</li> </ul>				0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より発足したハラスメント相談支援センターの学部相談員として、隔週金曜日の5コマ目を担当している。</li> <li>・計5回の疫学研究倫理審査委員会に2号委員として参加し、20件の申請審査に参加した。また、16件の迅速審査を担当した(6回目の委員会は来月開催予定)。</li> </ul>				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	石田 肇		所 属	医学研究科人体解剖学講座	
	職 名	教授			
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	2年次では解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、口頭試問を1回増やし、実習の質を上げる。解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。今年度から、1年次から、解剖学実習が始まり、実習時間が減るため、講義と合わせて、効率的な実習方法を考案する。4年次基礎研究で実施する局所解剖学実習では、臨床系講座の参加を促し、臨床に即した実習を行う。3年次の医科学実習では、海外調査の機会を与え、イギリスに短期留学できるようにする。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促す。また、今年度は、4年次指導教員として、積極的に学生の進路相談に応じる。とくに1,2年次については、新たなカリキュラムに対応できるように随時相談に応じる。	0.35	2年次では解剖学実習前の説明を行い、献体の所見を把握させ、口頭試問を1回増やし、実習の質を上げた。解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行い、再試験者が30名を超えた。今年度は、1年次の解剖学実習が始まり、実習時間が減ったため、人体の構造と機能の講義と合わせて、実習に即した内容の講義を実施した。4年次基礎研究や6年次で実施する局所解剖学実習では、臨床に即した実習を行った。3年次の医科学実習では、海外調査の機会を与える予定であったが、実現できなかった。Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促した。また、今年度は、4年次指導教員として、積極的に学生の進路相談に応じる。とくに1,2年次については、新たなカリキュラムに対応できるように随時相談に応じた。	
研究	0.30	時空間ゲノミクス(概算要求)、基盤研究A(分担)などを基に臨床系、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学、生物学などの形質人類学研究を進め、アメリカ形質人類学雑誌等のインパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。医学研究科並びに他大学などとの共同研究を進め、概算要求や大型科研費の申請を行う。戦没者遺骨鑑定の基盤研究B(分担)が採択されたので、これについても同位体分析等の研究を進める。	0.30	時空間ゲノミクス(概算要求)、基盤研究A(分担)などを基に臨床系、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学、生物学などの形質人類学研究を進め、責任著者または共同著者として、英文原著を8本発表した。新学術領域研究が採択され、分担者として参加することになった。医学研究科並びに他大学などとの共同研究を進め、概算要求や科研費基盤Aの申請を行った。戦没者遺骨鑑定の基盤研究B(分担)が採択されたので、これについても同位体分析等の研究を進め、Forensic Internationallに論文を発表し、NHKでも取り上げられた。	
社会貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施する。研究のところでも記載したが、鑑定のみならず、基盤研究として進める。	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図ったが、現在の医療系学校の状況は厳しい。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施し、厚生労働省に直接出向いて、今後の方向性を相談した。研究のところでも記載したが、鑑定のみならず、基盤研究として進めた。	
管理運営	0.25	副医学部長として、学部長の補佐をする。教育については、医学教育企画室員として、室長を補佐し、医学教育の改革を進める。基礎研究担当として、各基礎医学系講座の研究の活性化を図るため、学務委員会との連携を図り、また、台湾を中心とする大学間交流を進める。また、移転担当としては、医学研究科・医学部医学科移転準備室長として、実務に当たる。	0.25	副医学部長として、学部長の補佐を努めた。教育については、医学教育企画室員として、室長を補佐し、医学教育の改革を進め、さらに、機関別認証に向けて対策を練った。基礎研究担当として、各基礎医学系講座の研究の活性化を図るため、学務委員会との連携を図った。また、学部長とともに、台湾、シンガポール、上海を中心とする大学間交流を進めた。また、移転担当としては、医学研究科・医学部医学科移転準備室長として、医学部施設の基本設計を補助した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		泉水 奏	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.55	肉眼解剖、基礎配属の実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的観点から、学史的観点も含め臨床との関連について理解が深かまるよう指導説明し、学生の学習意欲の高めるようつとめる。			0.55	肉眼解剖、基礎配属の実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的観点からの説明をおこなった。ただ質問に答えるだけでなく、学生への質問、問題の提示をおこない、学生の問題意識の形成を促した。また学史的観点も含め臨床との関連について理解が深かまるよう、現在の臨床手法が存在しなかった場合を想起させ、学生のイメージーションと学習意欲が高めるよう努めた。		
研究	0.35	輸卵管内と外部に放られた卵の細胞内pHと細胞内の生理生化学的变化の研究を進める。また細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿する。また卵膜上昇に於ける膠質浸透圧の関与に関する論文の投稿準備をすすめる。科研の申請を行う。			0.35	輸卵管内と外部に放られた卵の細胞内pHと細胞内の生化学的变化の研究において進展はあったが。卵受精能獲得に関する論文はまとめが停滞し投稿にはいたらなかった。また質浸透圧の関与に関する論文の投稿準備はある程度進展があった。科研の申請を行なった。		
社会 貢献	0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する			0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い、とくに人体解剖学的知識と臨床との関連などを説明解説し、コメディカル人員の養成に貢献した。		
計	1.00				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松下 正之	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	学部学生 1)分子細胞生物学や人体の仕組みと機能の講義・実習により医学への理解を深める。 2)国家試験レベルのミニテストを授業終了時に行い理解を深める。 3)世界的な医学領域の発見を紹介し、研究マインドを醸成する。 4)授業資料はWebClassで閲覧可能とする。 大学院生 1)講義や実技指導により、研究活動に必要な知識や思考法を習得させる。 2)2名の大学院指導を行い、学会発表や論文発表を行う。		0.20	学部学生 1)分子細胞生物学や人体の仕組みと機能の講義・実習を行い、学生の医学への興味を喚起することができた。 2)講義終了時にミニテストを実施している。 3)医学領域の新たな発見を講義の中で紹介している。その結果が学部学生が講座で研究活動に参加している。 4)授業資料はすべてWebClassで閲覧可能である。 大学院生 1)講義や実技指導を行っている。 2)2名の大学院指導を行い、1名については筆頭著者での論文発表を行った。
研究	0.20	1)TRPM7論文の歯や肝臓における生理機能論文の投稿を目指す。 2)医学部で獲得している概算要求プロジェクトを推進する。 3)現在獲得している挑戦的萌芽研究を推進する。 4)沖縄県企画部との共同事業である国際医療拠点事業の疾患ゲノム研究を推進する。 5)AMEDのAKT-M公募にファイザー製薬と共同申請し、大型研究資金を獲得する。		0.20	1)TRPM7論文が共著者としてNature Communicationsの掲載された。 2)概算要求プロジェクトは順調に進展している。 3)現在獲得している挑戦的萌芽研究を推進し、精神疾患の病態解析でiPS細胞などを用いた研究成果が出ている。 4)沖縄県企画部との共同事業である国際医療拠点事業の疾患ゲノム研究を推進での分担研究で精神疾患ゲノム解析を進めている。 5)AMEDのAKT-M公募は採択されなかったが、次年度再挑戦の予定である。 6)1報の学位論文をBBRCに責任著者として発表し、2報の共著者論文をScientific Reportsに発表した。
社会 貢献	0.10	1)沖縄県内の医療福祉関係の専門学校生に講義を行い、沖縄県の医療に貢献する。 2)沖縄県や沖縄総合事務局主催の会議に参加し、沖縄県の医療レベルの向上に貢献する。		0.10	1)医療福祉関係の専門学校生に講義を継続して行っている。 2)沖縄県や沖縄総合事務局主催の多数の会議の委員になり社会的貢献を行っている。
管理 運営	0.50	1)医学部長・研究科長として医学部の管理運営を行う。 2)分子・細胞生理学講座教授として講座の管理運営を行う。 3)医学部・附属病院移転構想策定委員会委員長として、移転事業の推進をする。		0.50	1)医学部長・研究科長として医学部の管理運営業務を行い、様々な人事・制度改革を行い、医学部や研究科の円滑な運営に取り組んだ。 2)分子・細胞生理学講座教授として講座の管理運営を行い、教育、研究成果、競争的資金の獲得をしている。 3)医学部・附属病院移転構想策定委員会委員長として、移転事業の基本計画をまとめている。さらには、内閣府主催の国際医療拠点協議会委員として国際医療拠点形成へ向けた構想を提言している。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 真理子	所 属	医学研究科 分子・細胞生理学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期M2対象講義について 医学外国語講義で、[血小板について]の英文を、学生が知識を構築できる講義にする。 神経生理学実習では、脳波のとり方と解説を指導する。</li> <li>・前期基礎配属では実技を通して、血小板の基礎と臨床研究への応用を指導する。</li> <li>・後期M1対象生理学I講義・実習は、11コマと20コマ担当する。 理解度を深める講義を目指し、講義と実習を一連の流れで行い、血管内皮細胞・血小板機能等は、研究内容を講義や実習に導入する。学士入学M2は別に生理学実習を行う。</li> <li>・学生指導教官M3対象の学生へ生活態度の指導をおこなう。</li> </ul>		0.55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学外国語講義[血小板]は、学生から基礎から専門への知識構築に役立ったと評価された。</li> <li>・神経科学実習の「脳波のとり方と解説」については、臨床実践に役立つのを目的に行った結果、実習終了後、学生から解説について質問があり、学生の興味に対応することができた。</li> <li>後期M1対象人体の構造と機能のI講義・実習は、新しいカリキュラムで、60分となった。解剖学や生理学の内容の重複を避け、統合的講義になるよう努力した。特に、止血機構や血管内皮細胞・血小板機能の内容は、TBLも導入すると同時に、研究内容も講義や実習に生かした。学生の反応は良好であった。</li> <li>・指導教官として、懇談会はできなかったが、個別に学生との話し合いを設けた。</li> </ul>	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本生理学会で「血中血小板由来マイクロパーティクル(PDMP)値推移を比較し治療への応用につなげる」に関連する研究報告・発表を行う。また、骨髄移植におけるPDMPの推移を小児科領域と共同研究を開始する。</li> <li>・現在進行形の組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果について追究した結果を論文作成する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命医学財団のライフサイエンスプロジェクト助成のテーマ、「天然素材(蛇毒)からの抗血小板剤の開発」に関連する研究報告を行った。さらに組換えハプトビンの研究は名桜大学と一緒に継続中</li> <li>・「血中血小板由来マイクロパーティクル(PDMP)値推移を比較し治療への応用につなげる」に関連する研究は、小児科領域の先生方と現在進行中である。このテーマも生命医学研究振興財団から研究助成を受けた。</li> </ul>	
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士・作業療法士・柔道整復師を目指す学生に、生理学講義を通して正常な身体の機能を教授する(学外)。</li> <li>・県立看護大学大学院・名桜大学にて、病態生理学・生理学講義およびセミナーを行う。</li> <li>・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔道整復師、理学作業療法士を目指す学生に、生理学講義・実習を通して正常な身体の機能を教授した。さらに、県立看護大学大学院・名桜大学で、1年生対象に生理学講義、実習・病態生理学(病態と生理学の溝)(4月)の講義およびセミナーを行った。</li> <li>・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加した。</li> </ul>	
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育企画室と連絡を密にし、医学科の教育向上に貢献する。</li> <li>・センター試験・入学試験(面接)およびCBT等の試験監督を率先して協力を行なう。</li> <li>・CBTのブラッシュアップに率先して参加する。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育企画室と共に、新カリキュラム導入後の反省点や今後の改善点について話し合いに参加した。</li> <li>・センター試験の監督を率先して行った。</li> <li>・各種委員会から依頼された試験関連の提出を率先して行った。</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		早川 朋子	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	呼吸機能の生理学実習を行う。マイクロスピロメーターを用いて肺活量、努力性肺活量、最大換気量を測定し、肺の換気機能について考察する。			0.10	呼吸機能の生理学実習を行った。マイクロスピロメーターを用いて肺活量、努力性肺活量、最大換気量を測定し、肺の換気機能について考察した。また、川崎医科大学の学生実習を受け入れ、マウスiPS細胞より神経分化誘導実験の実習を行った。		
研究	0.90	統合失調症患者iPS細胞の樹立を行う。また現在受給中の科研費(基盤C)による研究成果の論文を投稿する。			0.90	統合失調症患者iPS細胞の樹立を行った。また現在受給中の科研費(基盤C)による研究成果の論文の執筆を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		圓谷智之	所 属		医学研究科 分子・細胞生理学講座	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	大学院生への実技・技術指導、学部学生への実習指導		0.15	実験の技術指導および研究内容について随時助言を行った。学部学生への実習指導を行った。		
研究	0.90	歯の発生、形成におけるTRPM7の役割とその分子的機構の解析 細胞膜透過性ペプチドの細胞内侵入にかかわる分子の同定とその分子機構の解析		0.75	TRPM7の生体内における分布領域を解明した。現在は継続して生体内における分子的機構の解析を行っている。新たな細胞膜透過ペプチドの候補を現在スクリーニング中である。		
社会貢献	0.00			0.10	TRPM7の生理学的機能についてブレインサイエンス研究会、日本分子生物学会年会、日本生理学会大会において発表を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		筒井 正人	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	①医学科2年生と3年生における薬理学の講義と実習、②医学科4年生における基礎研究配属の研究指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科1年生における医学概論の講義、⑤医学科2年生における医学外国語の講義、⑥医学科1年生の指導学生の生活指導を行う予定である。熱意と誠意を持って、当該教育に打ち込む。			0.30	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。		
研究	0.39	世界的に権威のある雑誌に、出来るだけ多くの論文をpublishさせることを目指す。加えて、外部資金の獲得に尽力する。			0.39	今年度は、Oncotarget (IF 5.0)、Am J Physiol (IF 3.4)、Lung (IF 2.3)の3報しか業績が上げられなかった。しかし、現在、Diabetologia (IF 6.3)とAJRCCM (IF 13.1)に論文を投稿中であり、加えて論文3報を新たに作成予定であり、今後は論文業績が上げられると予想している。外部資金獲得の目標は達成出来た。		
社会 貢献	0.01	久留米大学医学部と産業医科大学において薬理学の講義を支援する。また、公開授業を提供し、社会貢献を果たす。			0.01	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。		
管理 運営	0.30	現在、①教育研究評議会評議員、②医学部附属実験実習機器センター長、③戦略的研究推進委員会委員長、④琉球大学研究推進会議研究企画員、⑤学務委員会委員、⑥薬事審議会委員、⑦予算委員会委員、⑧組織整備検討委員会委員、⑨大学院委員会委員、⑩臨床研究利益相反審査部会委員、⑪臨床研究倫理審査委員会委員、を担当している。当該役職の職責を全うする。			0.30	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		坂梨 まゆ子	所 属		医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.25	中枢神経作用薬の講義では、統合失調症治療薬の講義において、脱法ドラッグ(および覚醒剤)の作用についての解説を追加する。漢方薬の講義では、六君子湯の作用機序に関する概説を組み入れる。昨年度好評であったため、本年も可能であれば漢方薬の試飲を行う。昨年度に引き続き、学内外で開催されるFDや薬に関する研修会に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映する。			0.25	中枢神経作用薬の講義では、統合失調症治療薬の講義において、覚醒剤の作用についての解説を追加した。漢方薬の講義では、刻み生薬の湯剤(煎じ液)の試飲を行い、エキス剤との違いの説明を追加した。六君子湯に関しては、作用の簡単な紹介のみ行った。昨年度に引き続き、学内および学外で開催された漢方医学研修会、および中枢作用薬の勉強会に参加し、最新の知見を広め、講義に反映した。		
研究	0.60	1) 科研費獲得研究である、テストステロンが虚血性心脈管疾患の増悪におよぼす影響を引き続き検討する。2) 助成金獲得研究であるNOS系完全欠損 miceの心筋梗塞発症における性差の影響を引き続き検討し、途中経過をまとめる。3) 3-MST KO miceが高血圧を呈する機序の解明を目指す。4) 大学院生の各種研究(SCFA負荷研究、low NOx 負荷研究、骨再生研究)の実験等をフォローする。研究の成果は、学会や研究報告会等で発表する。			0.60	1) 各研究においては、血管反応性実験や冠危険因子の測定、次世代シーケンサーを用いたRNAseqなどを行い、順調に進展している。2) 大学院生の各種研究(SCFA負荷研究、low NOx 負荷研究、骨再生研究)については、実験のみならず、各種測定の実技指導や実験計画立案指導、論文執筆指導を行った。3) 研究の成果について第18回国際東洋医学会で発表し、Poster Presentation Awardを受賞した。		
社会貢献	0.10	学外看護学生に対して薬理学教育を行う。琉大附属中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、適宜アドバイスを行う。一般人向けのお薬相談会等での相談、情報提供を行う。漢方薬・生薬認定薬剤師として、漢方薬の使用や適応などに関する指導や、副作用情報の提供を行う。研修認定薬剤師ならびに漢方薬・生薬認定薬剤師の認定更新のために、勉強会や研修に参加する。			0.10	浦添看護学校学生の薬理学教育を行った。琉大附属中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、アドバイスを行った(本年度はプール水質が基準値を下回ったことから水質管理を重点的に指導した)。一般人向けの健康相談会において相談、糖尿病治療薬の適正使用について情報提供を行った。漢方薬・生薬認定薬剤師ならびに研修認定薬剤師の勉強会や研修に参加し、本年度認定更新を受けたことから、一般薬剤師への漢方薬の使用に関する情報提供を行う。		
管理運営	0.05	各種大学入試(学士試験、地域枠試験、センター試験、2次試験等)の試験監督業務などの入試業務に協力する。エコアクションの一環として、研究室内の毒劇物管理を行う。化学物質管理責任者として試薬等の健全な管理を行う。			0.05	大学入試センター試験およびM6の総合試験の監督業務を行った。教育連絡主任として会議に出席し、卒業時コンピテンスWGグループにおいてはコンピテンス策定に従事した。化学物質管理責任者として試薬等の管理を行い、劇薬等の取扱について研究室内の使用内規を定めた。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		國吉 幸男	所 属		医学研究科(胸部心臓血管外科学講座)	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	1)学部学生への講義(M3,4);循環器外科に関する講義。大学院生への講義;人工弁、人工心臓、人工心臓等に関する講義等。 2)臨床実習(M5,6)学生へのベッドサイドの教育(術前・術後管理、手術の実際、提出レポートに基づく口頭試問の実施・評価)。 3)指導学生との懇談会、学習指導			0.25	1),2),3) 学部学生および大学院生への講義を行う。 また、指導教官として懇談会を開催し、学習指導を行う。		
研究	0.25	1)MEP(運動誘発電位)と対麻痺予防に関する研究・実験的研究 2)Budd-Chiari syndrome研究、胸部大動脈瘤研究の推進 3)学術学会の理事・評議員として運営への参加 4)国内外学術雑誌への投稿論文の査読への参加			0.25	1) 大学院生とMEP刺激実験を行う。MEP誘発電位を100%記録可能となった。 2)Budd-Chiari症候群に関する報告を、SVS(Washington DCにて)で行う。また厚労省難治疾患研究班として報告する。 3)、4)各種学会の理事、評議員として学術論文の査読等を行う。		
社会 貢献	0.10	1)地域医療への貢献 2)先進医療の導入 3)医療に関する学術講演会の開催			0.10	1)多くの重症心臓血管外科疾患患者の治療を行う。 2)大動脈弁形成術の導入。 3)八重山、宮古、他での先進医療に関する講演会を開催する。		
管理 運営	0.10	第二外科科長、大学院講座長としての管理運営			0.10	第二外科科長、大学院講座長としての管理運営に携わる。 学位授与一名。 学位審査一名。		
診療	0.30	1)先進医療を医療安全の下で推進する。 2)TAVI(TAVR)、植え込み型補助人工心臓植え込み術の実施			0.30	1)、2)を更に推進する。		
計	1.00				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 聡	所 属		医学部 医学科 胸部心臓血管外科学	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.15	医学部2年次の指導教官として進路指導を行う。医学部3年次及び4年次の臨床講義(系統講義)に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科(呼吸器外科・心臓外科)の教育を行う。また、研修医の1回以上の学会発表或いは症例報告を目標とする。			0.15	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。また、研修医に県医師会での症例報告を行わせることができた。臨床指導をととして、学生へ対応することができた。研修医への対応、指導ができた。懇談会等をととして、学生へ対応することができた。		
研究	0.20	基礎研究(心筋虚血・再灌流障害)の継続。臨床研究として開心術中の心筋虚血・再灌流障害についての解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。 また、臨床論文の筆頭著者論文を執筆する。			0.20	臨床研究としてのMICS術後の肺水腫予防についての構想をすすめている。肺水腫予防について国内外学会で発表し、さらに論文発表し得た。		
社会 貢献	0.15	臨床経験・治療成果(手術成績等)を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。			0.15	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては迅速に対応できた。又、低浸襲手術の一般市民に対する説明会を行えた。		
管理 運営	0.15	諸委員会への出席及び病院管理に於ける決定事項に対する当該医局での徹底の管理。病棟及びICU入退院の円滑管理。			0.15	諸委員会への出席及び病院管理に於ける決定事項に対する当該医局での徹底の管理及び病棟及びICU入退院の円滑管理ができた。		
診療	0.35	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。			0.35	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。又、低浸襲手術への取り組みが行えた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜瀬 勇也	所 属		大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学部臨床実習学生の指導を行う。主にベッドサイドを中心に、周術期の患者管理、手術中の注意点を指導する。レポートの作成、プレゼンの指導を行う。学生の国家試験対策として、循環器専門領域の知識の拡充も図る。			0.20	臨床実習学生(ポリクリ、クリクラ学生)に対し、心大血管症例の受け持ち症例をあたえ、その疾患の理解を深められるよう、不明点の説明指導、レポート指導をおこなった。また国家試験対策ととして循環器領域で頻度の高い疾患に対し、臨症上の問題点等の理解が得られるよう試験問題と関連づけて講義を行った。手術場では開心術liveを通して、手術手技、体外循環下の臓器保護などについて説明を行った。		
研究	0.15	臨症状問題となっている、大血管手術の際の脊髄虚血に対し、犬モデルによる脊髄血流保護に関する研究をすすめる。昨年に引き続き脊髄血流量とMEP振幅の相関、MEP振幅と体温の相関について研究を行う。			0.10	犬モデルを用いた脊髄血流保持に関する基礎実験をすすめた。臨床症例では低体温下手術での脊髄保護が有用であった症例の論文を投稿中である。		
社会貢献	0.05	臨床業務を通して、適切な手術および患者管理を継続する。また専門性の高い心臓血管外科領域の疾病、その治療手段に関して一般の方の理解が深められるよう医療講話(公開講座)等を行う。			0.10	八重山、北部地域を含めた県内の重症症例、緊急症例の受け入れを積極的に行った。4月には県民公開講座の一環で大動脈弁手術についての医療講和を行った。		
管理運営	0.05	医療事故を防ぐため各種委員会(医療機器安全管理委員会、輸血療法委員会等)で取り上げられた問題点を医局員へ伝え、円滑で安全な運営が出来るよう取り組む。			0.10	輸血療法委員会等での活動で、院内の問題点の解決へ積極的に取り組み、また医局員への啓蒙を行った。		
診療	0.60	外来、検査、入院患者の担当(主治医)を主とし、手術患者の周術期管理全般			0.50	専門性が高く、病態が複雑な心臓血管外科領域の症例に対し、術前、手術、術後適切な管理を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前田達也	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	大動脈瘤疾患に対するアプローチ方法(診断、治療、フォローアップ)について医学部学生および臨床研修医に十分に周知できるように、外来見学、ベッドサイドレクチャー、手術見学などを積極的に行っていく。			0.20	医学部学生(臨床実習生)に対して、受け持ち患者を1例ずつあたえ、その疾患についての理解を深めるとともに、その周術期管理およびフォロー方法について学習してもらった。また、文献検索方法や疾患についてのレポート指導を行った。		
研究	0.20	胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術に関して、学会での報告発表を行う。 また、筆頭著者論文を執筆する。			0.20	解離性大動脈瘤に対するステントグラフト治療や、術後エンドリークの検討を行い、学会発表を行った。		
社会貢献	0.20	沖縄県内において、大動脈瘤疾患に対するステントグラフト治療の周知および普及に努める。また、重症大動脈弁狭窄症の患者に対する経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)の周知および普及に努める。			0.20	地域への講演などを通して大動脈瘤疾患に対する、ステントグラフト治療の周知に努めた。また、関連病院におけるステントグラフト治療にも協力できる体制を作っている。TAVIに関してもハートチームを作成し、院内の検討会および、施設見学を行い、導入に向けて進めている。		
管理運営	0.20	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)のため、ハートチームの一員として、運営管理に携わる。			0.20	ハイブリッド手術室の導入および、その有効利用について検討および周知に携わった。入および、その有効利用について検討および周知に携わった。		
診療	0.20	大動脈瘤疾患に対する診断ならびに手術治療を行う。定期手術に加えて、緊急手術にも対応できるような態勢を整える。 また、退院後の定期外来管理を行う。			0.20	臨床を通じて緊急でも対応できる診断、治療、フォローアップに努めた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		垣花 学	所 属		医学研究科麻酔科学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。さらにM4に対してTBLなどDiscussionを中心とした講義に積極的に参加する。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。			0.15	医学部の系統講義ならびに試験を行いその評価を行った。病院臨床実習では、見学型ならびに診療型の臨床実習を行い、学生と共に診療方針などを決定し知識の系統化に貢献できた。10名ほどの初期臨床研修医に対し臨床研修必須項目を実施させた。		
研究	0.05	「ガス分子群を用いた革新的治療法の開発を目指した橋渡し研究」(概算要求)において、硫化水素ガスによる細胞保護効果について実験研究を行う。			0.05	「ガス分子群を用いた革新的治療法の開発を目指した橋渡し研究」(概算要求)の中で、生化学講座ならびに皮膚科学講座との共同研究を進め、科学的結果を見出した。		
社会 貢献	0.05	北部地区病院ならびに宮古・八重山地区の巡回診療を行い、地域の医療に貢献する。また、研究活動を学会および論文として公表し、その成果を臨床に応用できる体制を整える。			0.05	沖縄県内の病院において麻酔指導を行い、地域医療のレベルアップに貢献した。研究活動を学会および論文として公表した。		
管理 運営	0.30	医師キャリア支援センター長として初期研修医の教育体制を管理運営する。沖縄県地域医療センターの委員として地域医療センターの運営方針構築に努める。附属病院副院長として診療・運営に関わる。複数の委員会に参画し業務を遂行する。			0.15	総合臨床研修センター(旧 医師キャリア支援センター)長として初期臨床研修の教育体制を管理運営し、さらにFDとして指導医養成セミナー(2日間)を開催した。附属病院副院長として診療・運営に関わり、執行部に貢献した。		
診療	0.45	麻酔科長として手術部の効率を上げかつ安全性の向上に努める。複雑な症例の麻酔管理を行う。集中治療部長として、集中治療部メンバーと共に重症患者の診療にあたる。			0.60	平成28年度の麻酔科管理手術件数は、前年度より100件近く増加しており、麻酔科として手術部の効率と安全性の向上に貢献できた。集中治療部においても左心補助装着患者をはじめ重症患者の診療に貢献した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 清哉	所 属		医学部医学科麻酔科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導する。教官として学生、研修医の進路指導に関わる。			0.20	医学部学生の講義において、積極的に参加できるように講義を工夫した。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導した。また、2年次の指導教官として進路指導を行った。		
研究	0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。			0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行った。症例報告を作成した。		
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。			0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。		
管理運営	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。			0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力した。		
診療	0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療する。			0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従した。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金谷 文則	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	臨床講義「case presentation」では学生に主体性を持たせ発表させている。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。クリニカル・クラークシップではPBLを取り入れ実践的な指導を行っている。後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診を行っている。		0.30	十分目標を達成した。	
研究	0.25	標準整形外科の改訂、新潟手の外科セミナーの改訂、「先天性橈尺骨癒合症の分類」の執筆、大学院生の指導を行っている。		0.25	十分目標を達成した。	
社会 貢献	0.10	「熱中症の予防と対応」、「ロコモの対策」、「関節リウマチ」および「慢性疼痛」についての市民公開講座を予定している。		0.10	「腰・肩・膝の長引く痛み」、「熱中症の予防と対応」、「ロコモの対策」の市民公開講座を行い、十分目標を達成した。	
管理 運営	0.15	厚労省の「委員会委員」の他、日本整形外科学会・肘学会・末梢神経学会・運動器科学会の理事を務めている。		0.15	左記の他、整形外科・リハビリテーション専門医制度の確立に貢献し、十分目標を達成した。	
地域 医療	0.20	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島医療の充実のための人員配置と研修体制の確立および地域医療の充実を図る。		0.20	6名の入局者があり、今後の地域医療に貢献できる。十分目標を達成した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前原 博樹	所 属		琉球大学医学部	職 名		講師	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.15	医学生に対する骨軟部腫瘍領域の講義 授業の見直し(学生の意見をとりにいながら) 2年次学生の指導教官として学生支援を行う		0.10	講義およびポリクリ講義において、骨軟部腫瘍の講義を行ったが、学生の 意見は十分取り入れ改善している段階				
研究	0.15	学会での報告発表、外部資金の獲得、他大学との共同研究、他施設 共同研究		0.10	国内、国外において研究結果を報告できた。外部資金の獲得はできなかった。				
社会 貢献	0.05	啓蒙活動(医療従事者)、教育講演(一般)		0.10	医療従事者向けに講演を行った。、一般向けには達成できなかった。				
管理 運営	0.10	骨軟部腫瘍ミーティングの開催(病理医、放射線科医)、 骨転移がんセンターボードの開催(当院第二外科、泌尿器科、放射線 科を中心、他施設)		0.20	骨軟部腫瘍ミーティング、骨転移がんセンターボードを開催した。				
診療	0.55	診療活動		0.50	通常通りこなせた。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく ださい。		1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		普天間 朝上	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導		0.20	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導			
研究	0.30	横小切開による橈骨遠位端骨折接合術。母指CM関節症の再建。		0.30	横小切開による橈骨遠位端骨折接合術。母指CM関節症の再建。腕神経叢損傷に対する神経移植術、神経移行術を用いた肩肘再建			
社会貢献	0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画		0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画			
管理運営	0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督。		0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督。診療記録監査員			
診療	0.30	整形外科外来および病棟(手術)業務		0.30	整形外科外来および病棟(手術)業務			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		斎藤誠一	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	1年次の指導教員になったため、懇談会等を通して、彼らが今後順調に成長するための助言する。系統講義は学生の理解がしやすいような構造化された講義を行う。ポリクリでは外来診察時に、個々の症例について、臨床的な考え方、症例の特色や画像等について解説する。他科に進んでも必要な泌尿器科知識のエッセンスを伝えたい。サッカー一部の部長としてできるだけ機会に参加して、相談に乗りたい。			0.20	系統講義では疾患の基礎を、ポリクリでは泌尿器科に関する生きた知識を十分に伝えられたと思う。1年生の指導に関しては将来を希望を持って考えてもらう様な形で話をした。		
研究	0.20	臨床に役立つ、世界で初めての腫瘍マーカーに関する研究を展開する。英語論文を2件、投稿する。大学院生や医局員が競争的科学研究費を取得できるよう指導を行い、最低1件以上の科学研究費取得を目指す。できれば、パテントも1件は申請したい。			0.20	競争的科学研究費の取得に関しては、指導している大学院生が16K20146若手研究(B)を獲得し、自身は16K11016基盤研究(C)を獲得したため、十分な成果と思う。休学中の大学院生の英語論文は家庭の事情のため牛歩であるが、現在95%まで仕上がり、本年度中に投稿予定であり、本年4月の日本泌尿器科学会総会で発表予定。英語論文数は目標を達成できなかった。腫瘍マーカーに関しては多数の前立腺癌症例で免疫染色を施行中。一方、マンパワーの問題もあり当教室の研究遂行速度が遅いため、腫瘍マーカーの一部は共同研究を開始した。		
社会貢献	0.10	2015年に前立腺癌が日本における男性癌の罹患率第1位となったため、市民公開講座、医師会での講演を通して、県民や一般医に前立腺癌早期発見の重要性とその方法におけるポイントなどを伝えたい。			0.10	2016/3/16浦添市医師会で「前立腺癌診療のポイント」を、2016/6/16沖縄県保険医協会で「前立腺癌の見つけ方」を講演し、それぞれに資料も配布した。		
管理運営	0.20	病院の運営がスムーズに行えるよう、各種委員会で発言し、できれば建設的な提案を行っていききたい。			0.20	目を覆うばかりの駐車違反に対する交通対策のため新たな規定を設けるとともに、本年1月から同規定が施行となり、改善の傾向が見られる。新人オリエンテーションで患者を大切にすることの意味を伝えた。患者サービスのため医療支援課とともに問題点を抽出し、対策を講じた。病院のインフラである材料部の部長として富島師長とともに材料部の改善に努めた。		
診療	0.20	何よりも患者さんの安全を第一にした医療を心がける。本年ダビンチが導入されるため、事前準備に力を注ぎ、初期症例から慎重に手術を行う。チーム医療が求められるため、意志疎通が円滑になされるよう、コミュニケーションを大切に。若手の腹腔鏡手術を指導する。			0.30	週3.5回(本年1月より3.75回)の症例カンファレンスや週に4日の朝回診を通して何よりも安全で患者に有益な医療を遂行できたと思う。引き続きより一層の安全な医療を心がけたい。ダビンチの立ち上げに、病院長、執行部、事務部、各部署からの多大な支援をいただき、本年2月に初症例を施行できる運びになった。若手の腹腔鏡を含めた手術指導を行い、難度の高い手術を遂行した。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		泉 恵一郎		所 属		医学部 腎泌尿器外科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	・ポリクリ、クリクラ学生の教育、指導				0.20	・外来、病棟などで積極的に話しかけ指導できた				
研究	0.20	・学術研究会等(参加、発表、論文)				0.20	・可及的に学術研究等に参加し発表できた				
診療	0.60	・研究成果などを日常の診療に活用する、病棟業務を継続				0.60	・朝晩の病棟管理を行った ・後期は外来診療にも携わった				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	新崎 章		所 属	医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義する。学生生活委員長として医学部学生のメンタル・ケアについても支援する。	0.20	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義した。学生生活委員長として医学部学生のメンタル・ケアについても支援した。	
研究	0.25	大学院生の研究(上皮迷入の関する研究・再生医療に関する研究)指導および論文作成指導を行う。助教の研究指導と研究担当助教の論文(早期舌癌の遠隔転移発生に関する術前化学療法の効果)指導を行う。	0.25	大学院生及び教員の研究指導を行い、その成果としてインパクトファクターを有する学術雑誌に原著論文2編、症例報告4編(インパクトファクター総和10.87)がacceptされた。また、インパクトファクターなしの英論文1編、和論文3編がacceptされた。	
社会 貢献	0.15	沖縄県口唇口蓋裂を考える会(患者家族の会)の活動を継続する。「口腔ケアの市民公開講座」を開催し啓発活動をする。ラオスおよびエチオピアでの海外医療援助(口唇口蓋裂患者の無料手術)活動を行う。ラオス名誉領事の活動を行い国際貢献活動を行う。	0.15	沖縄県口唇口蓋裂を考える会(患者家族の会)の活動を継続した。「口腔ケアの市民公開講座」や医師会及び歯科医師会等で講演し啓発活動をした。ラオスおよびエチオピアでの海外医療援助(口唇口蓋裂患者の無料手術)活動を行った。ラオス名誉領事の活動通して国際貢献活動を行った。	
管理 運営	0.15	医学部組織整備検討委員会、学生生活委員会、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員会、病院長補佐、広報委員会、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議、分析担当者会議、国際交流委員会、国際協力専門委員会、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員会等の委員会で運営に携わる。	0.15	医学部組織整備検討委員会、学生生活委員会、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員会、病院長補佐、広報委員会、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議、分析担当者会議、国際交流委員会、国際協力専門委員会、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員会等の委員会で運営に携わった。	
診療	0.25	①EBMに基づいた良質の先端医療を提供する。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行う。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図る。④口唇口蓋裂センターの充実を図る。在宅支援センターを立ち上げ、大学病院の地域包括ケアにおける役割を果たす。	0.25	①EBMに基づいた良質の先端医療を提供した。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行った。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図った。④口唇口蓋裂センターの充実を図り、在宅支援センターを立ち上げ、大学病院の地域包括ケアにおける役割を果たした。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西原 一秀	所 属		医学部 医学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>顎顔面口腔機能再建学講座医員の臨床・研究ならびに教育に対する指導を行う</li> <li>今年度入学の大学院生の研究指導を行う</li> <li>歯科医師臨床研修医の臨床ならびに研究の指導を行う</li> <li>医学部学生の歯科・口腔外科学の講義ならびに臨床教育を行う</li> <li>医学部生指導教官としての学生支援を行う</li> </ul>			0.25	(達成できている) 医局員の教育指導は、手術の指導、外来の患者診察など適切に行うことができたと考える。今年度は、口腔外科専門医を1名が取得した。歯科医師臨床研修医には診察、研究指導を適切に行い、学会発表2名、海外医療援助活動2名など有意義な研修を行わせることができた。医学部学生では講義を担当し、ポリクリではゼミなどの講義を行うこともできた。今年度の新入生指導では指導教官として学生とコミュニケーションを取りながら担当学生全員進級することができた。		
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際学会誌の投稿および国際学会・各専門学会の発表を行う</li> <li>口唇口蓋裂グループの臨床的研究の充実とチームによる研究のマネージメントを行う</li> <li>顎骨再建・口腔機能再建に対する基礎的・臨床的研究を行う。</li> <li>科学研究費基盤研究(一般C),(海外B)に申請中である。</li> </ul>			0.25	(達成できている) 今年度はIFの有する雑誌4編(筆頭、共著)と英論文1編(筆頭)を報告した。申請中の日本語論文は3編、英論文1編である。専門分野の口唇口蓋裂では招待講演として2編発表し、国内学会、国際学会で多数の発表を行った。科研費の獲得ができなかったが、分担者としての科研費と口腔外科学会から海外活動費を得た。		
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>口唇口蓋裂患者の国際医療援助活動(ラオス・エチオピア)を継続する</li> <li>沖縄県口唇口蓋裂を考える会の定期的開催を継続する</li> <li>沖縄県のHIV関連の歯科診療連携の体制作りを行う</li> </ul>			0.15	(達成できている) 今年度は12月ラオス、2月エチオピアで口唇口蓋裂医療援助活動を行った。また、その活動は新聞報道、附属病院、大学のHPにUPされた。また、口唇口蓋裂親の会の開催も計画し、3月に行う予定である。今年度は口腔科学会地方部会を準備委員長として開催し、好評であった。HIV患者の治療を行う関連歯科病院の連携を開始し、歯科医師会で講演を行い連携を図っている。		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院内各委員会の継続的な参加</li> <li>感染対策委員会の参加</li> <li>歯科口腔外科外来医長として外来の管理運営を行う</li> </ul>			0.10	(達成できている) 院内感染対策委員として委員会参加を行った。また、各種会議に積極的に活動している。歯科口腔外科准教授として医局の管理、外来医長として管理運営を行った。		
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故件数0件を目指す</li> <li>歯科口腔外科外来ならびに手術患者数の増加および診療報酬増加</li> <li>口唇口蓋裂センターの診療体制の充実と患者増</li> <li>病院内周術期の口腔ケアの診療体制の確立と患者増</li> <li>歯科用インプラント治療の診療体制の確立と患者増</li> </ul>			0.25	(達成できている) 医療事故数は0件であった。歯科口腔外科の診療報酬増加のために周術期の口腔機能管理、インプラント治療の整備、口唇口蓋裂センターの充実に努力し、患者数の増加、手術件数の増加が見られた。口唇口蓋裂受診患者数ならびに周術期の口腔機能管理患者は増加している。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仁村文和	所 属		医学部医学科歯科口腔外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	医学部学生に対して口腔外科領域の講義および手術を通じて口腔領域の解剖等の講義を行う。特に講義においては、腫瘍、および摂食、嚥下について講義を行う。研修医に関して、診療や学会を通じて口腔外科に必要な知識を確認を行う。			0.30	医学部学生に対して口腔外科領域の講義および手術を通じて口腔領域の解剖、口腔ケアの重要性についての講義を行った。特に講義においては、口腔腫瘍、および摂食、嚥下障害について理解を深めてもらい講義を行った。		
研究	0.20	口腔癌の頸部リンパ節転移に対する予防郭清の適応についての研究。また、口腔ケアおよび摂食・嚥下機能評価について研究を行う。			0.20	口腔癌の動注化学放射線療法後の治療効果について学会発表(日本口腔腫瘍学会で発表)を行った。口腔癌の臨床統計をまとめ、学会で発表を行った。		
社会 貢献	0.20	口腔外科での知識を開業歯科医院に診療や勉強会で共有する。口腔健診を通じて口腔癌の早期発見に貢献する。			0.20	日本歯科医師会の会議に参加、今後の口腔ケアについて開業歯科医院との連携について会議を行った。また口腔検診を行うことで早期の口腔癌発見についても行ってきた。		
管理 運営	0.10	歯科医師研修指導歯科医師の委員として研修運営に携わる。			0.10	歯科医師研修歯科医師の選考、プログラムの作成、その他の運営に携わった。		
診療	0.20	口腔外科疾患の治療、特に口腔癌の治療を中心に診療を行った。ま			0.20	特に口腔癌治療と術前の口腔ケア、摂食嚥下障害の評価およびリハビリを行った。また日本口腔外科学会の専門医を習得した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		喜名 振一郎	所 属		顎顔面口腔機能再建学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	大学院生が共著となれるような指導実績をつくる 大学院受験生を増やす		0.20	大学院生が共著となれるような指導実績をつかった 大学院受験生を増やせなかった
研究	0.60	筆頭筆者の論文を受理される		0.60	筆頭筆者の論文を受理された
社会貢献	0.10	市民公開講座に積極的に参加する		0.10	市民公開講座が開催されなかった
管理運営	0.10	学内委員会への積極的な出席		0.10	センター試験の監督を行う予定である
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久木田 一郎	所 属		医学部 医学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.15	救急医療講義、倫理討論、医療学総論、公衆衛生チュータ、保健学科講義、1年目、5~6年時救急車同乗実習等で救急災害医療・医療倫理について教育する。臨床実習でER型救急部で参加型臨床実習を行い知識・能力を養う。大学院生博士、修士へ救急・災害演習を行う。初期臨床研修医への教育を行う。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有する。3年次学生指導教官として学生指導。			0.15	救急医療講義、倫理討論、医療学総論、公衆衛生チュータ、保健学科講義、1年目、5~6年時救急車同乗実習等で救急災害医療・医療倫理について教育した。臨床実習でER型救急部で参加型臨床実習を行い教育した。大学院生博士、修士へ救急・災害演習、研究指導を行った。初期臨床研修医への教育を行った。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有した。3年次学生指導教官として学生指導を行った。		
研究	0.10	重症患者の救命治療に関する研究を進める。講座に属する大学院生(博士、修士)への研究指導(救急医療財団より研究費助成)、災害医療に関し衛星を活用する研究を進める。			0.10	重症患者の救命治療に関する研究を進め、講座に属する大学院生(博士、修士)への研究指導(救急医療財団より研究費助成あり)を行った。災害医療に関し衛星を活用する研究を進めている。		
社会 貢献	0.15	救急部拡充後の当院の救急・災害医療の受け入れ能力を高める。在沖米国海軍病院との連携を進める。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担う。災害医療に関する沖縄県や国、国際的な連携体制を構築するための活動を行う。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献する。			0.15	救急部拡充後の当院の救急・災害医療の受け入れ能力を高めた。在沖米国海軍病院との連携を進めた。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担った。熊本地震災害へのDMAT派遣など、災害医療に関する沖縄県や国と連携体制を構築する活動を行った。海上保安庁と協力し洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献した。		
管理 運営	0.10	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、附属病院における臨床工学技士の教育・円滑な活動ができるよう体制を作り、医療機器に関する医療安全を向上させる。救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の救急災害診療体制構築を進める。			0.10	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、当院における臨床工学技士の教育・円滑な活動環境整備に尽力し、医療機器に関する医療安全の向上に努めた。救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加、災害対策WG長として参加し、病院の救急災害診療体制構築を進めた。		
診療	0.50	医学部附属病院の救急部部長として救急部拡充後の救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、救急診療体制の維持向上に努める。附属病院移転構想にある高度救命救急センターの設置および厚生労働省の地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、受け入れ患者の重症度を高めることに努め、DPCの救急係数を上げ、病院全体の収入および救急部の収入、救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増に貢献する。			0.50	当院の救急部部長として救急部拡充後の救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、救急診療体制の維持向上に努めた。当院移転構想にある高度救命救急センターの設置および厚生労働省の地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、受け入れ患者の重症度を高めることに努め、DPCの救急係数を上げ、HCU施設基準クリアし、病院全体の収入および救急部の収入の若干、救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増に貢献した。		
計	1.00				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		植田 真一郎	所 属		医学研究科 臨床薬理学／臨床研究教育学
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	医学科学生にも従来の臨床薬理学に関する教育に加え、臨床試験、研究、研究倫理に関する教育を実施する。 大学院医学研究科においては臨床研究の指導、臨床研究に関わるさまざまなスキル、品質管理について教育、研究指導を行う。		0.25	医学科学生にも従来の臨床薬理学に関する教育に加え、臨床試験、研究、研究倫理に関する少人数での教育を医科学実習を希望した医学生に実施 大学院医学研究科においては臨床研究の指導、臨床研究に関わるさまざまなスキル、品質管理について教育、研究指導を施設を訪問して、また合宿形式で実施した。
研究	0.45	医師主導治験(第2相用量設定試験)を主任研究者として開始する。 第3相試験に向けて企業との交渉、AMEDとの交渉を行い、外部資金を獲得する。 新規抗凝固薬のコホート研究を企業からの大型研究費を獲得して開始する。 冠動脈疾患大型コホートの論文を投稿する。 複数の臨床薬理研究、薬理遺伝学研究の論文を投稿、出版する。 医師主導臨床試験の品質管理を実施する。		0.40	医師主導治験(第2相用量設定試験)を主任研究者として準備し、来年度初頭から開始できるようにした。 第3相試験に向けて研究費の申請を行った。 新規抗凝固薬のコホート研究を企業からの大型研究費を獲得して開始した。 冠動脈疾患大型コホートの論文を投稿した。 複数の臨床薬理研究、薬理遺伝学研究の論文を投稿、出版した。 複数の学外、学内の医師主導臨床試験の品質管理を実施した。
社会 貢献	0.20	臨床研究ワークショップ、臨床研究フェローシップを主催し、県内外の臨床医の臨床研究トレーニングを行う。 臨床薬理専門家としてPMDA外部審査委員、医療裁判の鑑定人などを務める		0.25	臨床研究ワークショップ、臨床研究フェローシップを主催し、県内外の臨床医の臨床研究トレーニングを行った。 臨床薬理専門家としてPMDA外部審査委員、医療裁判の鑑定人などを務めた。
管理 運営	0.10	学務、学位審査資格、利益相反、倫理、治験などに関わる学内各種委員あるいは委員長として研究の質の向上に努める。		0.10	臨床研究倫理審査委員会及び治験審査委員会(委員長)での審議の他個別の案件にも対応して、学内の臨床研究の質の向上と医師主導治験の推進に努めた。 院内研究者の利益相反について提出された申請書ごとに全ての審査を行った。 学位審査資格委員長として学位審査会の設置、学位論文の提出のサポートを行った。 学務委員として大学院の説明会などに積極的に参加し、説明を県外でも行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	松下明子		所 属	医学研究科臨床薬理学講座		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	臨床薬理学講義、大学院講義の担当分、その他依頼された講義は、厚生労働省やWHOの最新の統計データや、学術論文を取り入れ、学生が今後の診療・研究を進めていく上で基本的な考え方が出来るよう、理解しやすい構成を工夫する。		0.20	左記の目標は達成している		
研究	0.55	ヒト薬理試験、培養細胞実験を組み合わせ、高血圧、動脈硬化関連疾患の発症メカニズム、治療法の探索を行う。成果を国内、国際会議での研究発表、論文投稿する。		0.60	昨年に引き続き、他施設との臨床研究検体の処理、解析を行っている。個人研究では国際フォーラムにて成果を発表した。		
社会 貢献	0.15	学会、論文発表等による研究成果の社会への還元		0.10	5月と2月(予定)に学会発表した。		
管理 運営	0.10	入試関連業務等、依頼があった場合、協力する。 以前より主催しているリサーチカンファランスを、内容や開催形式を刷新し、学部・研究科の大学院生や研究者のネットワークをつくり、研究カンファランスを定期的開催し、全体の研究アクティビティの活発化を推進する。		0.10	入試業務、リサーチカンファランスの主催と、開催の存続ための活動を行った。研究者ネットワークが出来てきた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		苅谷 研一	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	大学院教育(共通講義、特論、演習、実習等)、学部教育(新たに立ち上がった基礎系融合コースの分子細胞生物学、基礎研究)、および共通教育(医学概論A)を担当する。また、大学院博士課程学生の出身臨床講座で通用する研究内容を念頭に指導し、院生の卒後の活動についても必要な支援を行う。			0.45	大学院教育では講義とともに臨床系院生の実験と学位論文作成を指導した。他講座副指導教員の業務も終え学位取得に至った。学部教育では「分子細胞生物学」での講義・実習のほか、国試対策FD出席、共通教育講義も行った。また、M3基礎研究ではOIST希望者6名の面接選抜、国際インターンシップ応募のresearch proposal, CV作成指導やrecommendation letterでの援助も行い採択された。		
研究	0.35	大学院博士課程の院生や他の教員とともに研究の進展、論文の採択、学外との研究交流(学会や他施設との共同研究等)、外部資金の獲得などにつとめる。			0.35	臨床系院生の論文報告とともに、引き続き出身講座での研究に資する実験を進めたほか、教室独自のKOマウスの1つについてOISTおよび昨年度と異なる外部機関とも共同研究し、これらの新知見に基づいた科研応募および、同マウスについて別テーマの学会発表も行った。		
社会 貢献	0.10	研究で得た知見を民間との連携を通じて社会に還元できるよう目指す。また、査読や審査など学外からの依頼があれば応じて遂行する。			0.10	共同研究したことのある研究者によるベンチャー企業立ち上げに相談や協力をした(利益関係無し)ほか、依頼された国際誌の査読業務も行った。		
管理 運営	0.10	学内、学部内の各種委員会活動に従事する。			0.10	学内、学部内の各種委員会構成員の職務を遂行した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		海川 正人	所 属	医学研究科・医化学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	教育は大学院教育(講義、実験指導)、大学院副指導教員、および今年度から始まった基礎講座合同講義・実習、基礎研究等に従事、学生支援は学部学生の指導教員としての活動に従事する。また、学生支援として大学院生の希望する進路について助言する。また、指導教員として学部学生のケアも行う。		0.40	大学院講義、講座大学院生の実験指導と他講座大学院生の副指導教員業務、学部学生については基礎合同カリキュラム(分子細胞生物学)の講義や実習に加え講座の教務連絡主任を務め、学部学生支援としては指導教員として班会等での生活指導等を遂行した。	
研究	0.40	新規に獲得した科学研究費(基盤研究C)のテーマについて研究するとともに、他の教員や大学院生と協力して研究の進展、情報交換(学会や共同研究)に励み、論文の採択、さらなる外部資金の獲得を目指す。		0.40	獲得した科学研究費補助金(基盤研究C)を用いて自らのテーマの研究を推進させ、各種学会にも参加して独自の研究内容を示し情報交換を行った。	
社会 貢献	0.10	研究で得た知見、技術が医療に還元できることを目指して研究する。		0.10	研究内容は炎症性疾患や血液疾患の機構解明に資するもので、新規治療法の開発の端緒となる可能性が高い。	
管理 運営	0.10	講座内業務分担、機器運用の効率化等について総合的に調整する。また教務連絡主任として学部教育関連業務を必要に応じて遂行する。		0.10	講座内の業務分担調整等だけでなく入試面接委員、センター試験監督など入試関連業務も遂行した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中 公子	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	医学研究科教育では教室の大学院生の実験指導、医学科教育では生化学実習等の学部生教育を他の教員とともに担当する。新カリキュラムにおける生化学実習では従来におとらぬ学習の質を保证すべく努力する。学生に対する支援としては、大学院生や学部学生の相談に応じて、家庭を持つ女性研究者・臨床医としての経験に基づく助言を行う。			0.40	大学院生の実験を随時指導するとともに、学部学生の分子細胞生物の実習の指導を主に行った。また、臨床系女性大学院生、学部の後輩女子学生らと話し、キャリアと家庭との両立や進路について助言した。		
研究	0.50	教室の教員、院生、他講座スタッフ、外部施設研究者と共に研究を進め、学会、研究会等で情報交換するとともに、論文発表、外部資金の獲得などにつとめる。			0.50	科研費(基盤C)によるKOマウスの研究、皮膚科との共同研究論文の追加実験、沖縄科学技術大学院大学との共同研究にも従事した。筆頭で学会発表も行った。		
社会貢献	0.05	将来的に地域・社会の臨床現場で役立つ研究を目標とする。			0.05	本学や地域の皮膚科診療の向上に資するべく研究し、非常勤医師として地域医療へも参加している。皮膚科との共同研究は実臨床に直結する内容である。		
管理運営	0.05	動物、試薬・機器の効率的な維持管理につとめ、環境への負荷軽減に配慮する。			0.05	各種マウスの講座としての維持管理、OISTをはじめ対外連絡を中心となって遂行した。講座の環境にも配慮した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安里 剛	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	大学院教育(講座内院生指導)、学部学生教育(今年度からの基礎講座オムニバス講義、生化学実習、実習レポート評価、各種問題作成等)を分担する。学部講義、実習は昨年度の過渡期的状態に続いて今回も柔軟な対応により教育効果向上に勤める。また、大学院生の進路につき希望や適性を把握して助言する。			0.40	大学院では院生の実験を必要に応じて指導、学部学生に対しては今年度からの基礎オムニバス講義・分子細胞生物学での講義、実習指導、実習レポート評価、各種問題作成等を行った。特に実習での指導と評価には中心的に従事した。また、院生や既卒院生と対話した。		
研究	0.40	講座内外の教員、講座所属大学院生らと協力して研究を進める。他施設との交流をも通して研究内容の向上を図り、研究成果の発信(論文等での発表)や外部資金の獲得を目指す。			0.40	本学だけでなく沖縄科学技術大学院大学でも客員研究員として共同研究し、引き続き講座のノックアウトマウス研究路線を支え、関連の学会発表も行った。		
社会 貢献	0.10	最終的には民間企業等をへて社会や地域への還元を目指し研究を進める。			0.10	以前に指導を受けた研究者が起業するにあたり情報交換などの協力をした。		
管理 運営	0.10	節電・節水等も含め講座内環境の整備維持に務める。			0.10	研究室の環境・機器の整備、維持、環境負荷軽減に注意した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山本 秀幸	所 属	大学院医学研究科・生化学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	医学部医学科1年次学生の医学概論Aおよび分子細胞生物学、2年次学生の医学英語の講義および実習を担当する。分子細胞生物学の講義では、新しい教科書とスライド、および資料を用いて医学科学生に最適な内容を講義するように努める。大学院医学研究科の生命工学概論と基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当する。医学科教務委員会委員長、医学科5年次の指導教員として学生支援を行う。		0.45	医学部医学科1年次学生の医学概論Aおよび分子細胞生物学、2年次学生の医学英語の講義を担当した。分子細胞生物学の講義では、自らが翻訳に加わった教科書に沿ってスライドと資料を作成し、WebClassにもものせて学生が自主学習できるように配慮した。分子細胞生物学の実習と3年次学生の医科学研究の指導を行った。大学院医学研究科の生命工学概論と基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当した。医学科教務委員会委員長、5年次学生の指導教員として学生支援を行った。	
研究	0.35	生化学会および神経化学会に出席し研究成果を発表する。会場での討論により研究者間での情報交換を行う。大学院修士課程の学生1名、博士課程の学生3名および教室員の研究教育を指導し、生化学系、細胞生物学系、薬理学系の雑誌でインパクトファクターの高い雑誌への論文の採択を目指す。科学研究費補助金に加え、様々な外部資金獲得を目指す。		0.35	9月の神経化学会と生化学会大会に出席し、筆頭演者として研究成果を発表した。5月の生化学会九州支部会では本講座の2名が、12月の分子生物学会では3名が発表するための指導を行った。科学研究費補助金として、基盤研究(c)が採択された。	
社会貢献	0.05	薬理学に関連する企業との共同研究を計画し、研究成果の社会への還元を目指す。要請があれば、CBTモニター委員として大学間共用試験の実施に貢献する。		0.05	薬理学研究に関連する企業との共同研究を行い、研究成果を学会で発表した。	
管理運営	0.15	医学部RI実験施設長として施設の管理を行う。医学科教務委員会委員長として学生の教育に携わる。ハラスメント防止対策委員会委員、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行う。医学教育分野別評価検討委員会の委員として分野別評価受審に備える。		0.15	医学部RI実験施設長として施設の管理を行った。医学科教務委員会委員長および医学教育企画室委員としてカリキュラムの作成と学生の教育に携わった。ハラスメント防止対策委員会委員、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行った。医学教育分野別評価検討委員会の委員として分野別評価の自己評価書を作成してきた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉見 直己	所 属		医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	1. 病理学I 講義と実習を担当するとともに、基礎配属実習の充実を諮る。2. 臨床実習の継続と病理医育成を視野にシステムの充実を諮る。3. 大学院院生に関しては学会発表と論文指導を諮る。4. 引き続き、病理解剖検討会を開催と研修医CPCを実施し、医療の質を確保する。5. 四年次学生の指導教員として対応する。			0.20	4に関しては、今年度は当番年ではなかったため、実施しておらず、来年度に予定している。それ以外では、予定通りに実施し、特に、2に関しては、7名の将来の病理医希望者を、九州支部主催の病理の学校に派遣し、九州地区の学生らとの交流を計った。3では大学後援会から旅費の支援を得、米国癌学会に院生発表を行った。また、来年度の新規院生希望者は2名を予定している。		
研究	0.30	1. 引き続き、厚労省の指定型研究の獲得とその班長としての任務を遂行する。2. ラオスでの細胞診指導と支援を継続する。3. 国立高専との共同研究を目指す。			0.30	厚労省の班研究は最終年ではあるが、予定通り、科研費として獲得した。また、予定外にデジタルパソロジーでのAMED研究費の獲得ができ、診療や社会貢献とも関与するが、国・県から医療介護総合支援基金からの予算獲得もできた。		
社会貢献	0.15	1. 沖縄県医師会の事故調査委員として、特に病理解剖のに関して遂行する。2. 県立宮古病院のは剖検症例の実施により、研修施設認定に貢献する 3. 同様に本島での民間病院での病理診断と剖検業務に貢献する。4. 県下の医療系学校で必修である病理学講義を通じて社会貢献する。			0.15	すべて、実施している。		
管理運営	0.15	1. 病院長補佐としての職務を担当するとともに、上記の社会貢献に関わるが、沖縄県医療の基盤としての病理診断連携のための基盤作りを目指す。2. 専門医機構のなかで、沖縄県唯一の病理専門医プログラムを基盤病院として遂行する。3. 臨床研究倫理委員会委員長として昨年来の指針の変更に対する基盤整備を目指す。4. 中期目標のうち、臨床研究に関するプログラムの遂行のまとめ役を担当する。			0.15	すべて、実施している。特に臨床研究倫理委員長として、他の倫理委員会、特に疫学倫理委員会との統合に対して、体制作りを準備している。		
診療	0.20	1. 病理診断科科长として病理診断を遂行する。2. 引き続き、遠隔病理診断として県立宮古病院及び八重山病院の遠隔術中病理診断を継続する。			0.20	上記、研究面にも触れたが、遠隔病理診断の延長線上で、国・県から医療介護総合支援基金からの予算獲得ができ、沖縄県全体を考慮した地域完結型の病理診断の基盤作りをはじめることになった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松崎 晶子	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	2年時の医学英語の授業を担当し、医学論文の読み方などを手ほどきする。3年時では病理学の授業を通じて、学生の病理学ひいてはヒトの疾病の理解を助ける。4-6年のポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。		0.40	2年時の医学英語の授業を担当し、Histology for pathologistという教科書を使用して医学論文の読み方などを手ほどきした。3年時では病理学の授業をおこなった。4-6年のポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせた。また、病理解剖では学生のみならず、前期研修医にも教育をおこなった。	
研究	0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表、外科病理症例の論文作成。		0.30	第105回日本病理学会総会(仙台)において、症例報告を行なった。外科病理症例の論文も作成し、診断病理学雑誌に掲載予定である。	
社会 貢献	0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。		0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。	
管理 運営	0.10	委員会に出席し、CBTなどの問題作成、ブラッシュアップ。		0.10	CBT問題の作成やブラッシュアップなどをおこなった。	
診療	0.10	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンス		0.10	病院病理部での診断や、他科とのカンファレンスなどをおこなった。また、学外での勉強会にも参加した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加留部 謙之輔	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学生に対する講義および実習において、まとまりのある資料作りと分かりやすい説明を心がける。		0.30	2年生、3年生の講義および実習に関わり、基礎研究で学生に研究指導も行った。学生からの授業評価では常に高い評価を得ている。	
研究	0.40	「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるJAK-STAT経路活性化の意義」のテーマで日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)に採択された。このテーマの研究を継続する。成人T細胞白血病に関連するゲノム解析の研究を開始する。		0.40	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫に関しては、病理学的所見、臨床所見、遺伝子異常の所見をほぼ網羅的に解析した。現在、研究協力病院からの症例の追加をもって、論文発表を行っていく予定である。成人T細胞白血病の研究においても、同様に臨床病理学的、遺伝子学的な視点から解析を進めている。	
社会 貢献	0.05	研究成果について、広く一般に情報発信する。		0.05	地域の研究会に参加し、講演を行い、議論に参加した。	
管理 運営	0.05	倫理委員会、入試委員会、学生委員会、人事に関する委員会など、計7つの委員会を担当している。病理部長を兼任している。		0.05	委員会委員として多くの運営業務に携わった。病理部の環境改善に関し、臨床各科との交渉や新規機器の導入に携わった。	
診療	0.20	病理診断医として大学病院の診療に携わった。		0.20	病理診断医として約1500件の外科病理診断に関わり、大学病院の診療に携わった。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		喜瀬 真雄		所 属		医学研究科 衛生学・公衆衛生学講座		職 名		特命助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.10	基礎教育実習の希望者がいれば対応する				0.10	医科学研究(M3)の学生指導を行った				
研究	0.05	障がい者スポーツ関係で科学研究費を獲得するための準備を行う				0.05	障がい者スポーツ関係で科学研究費申請書を提出した				
社会 貢献	0.80	エコチル調査関連業務を行う				0.80	エコチル調査関連業務を遂行した				
管理 運営	0.05	委員会委員				0.05	ブラッシュアップ委員として活動した				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎哲次	所 属		医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学科6年次の臨床実習において、法医学を希望する学生へ実習を実施する。医学科4年次の基礎研究において、学生を6名まで受け入れる。医学科6年次学生の指導教員としての任務を遂行する。医学科1年次向けの医学概論Aでは最初の授業を担当する。琉大法務研究科において、昨年度に引き続いて視野の広い法律家作りに貢献することを目的とする科目「刑事政策」に参画し、授業を行う。法医学講座に在籍している博士課程大学院4年次学生をTA及びRAとして採用する。鹿児島大及び横浜市大の非常勤講師としての責務を果たす。			0.20	医学科6年次の選択実習では法医学を希望した6名の学生を受け入れて法医学解剖や死体検案を中心とする実習を行った。医学科4年次の基礎研究では、法医学を希望した6名の学生を受け入れて実習を行った。医学科指導教員として年2回の懇談会を実施して報告書を医学部学務課に提出した。法務研究科の授業では昨年度より担当コマ数を増加させた。法医学在籍の博士課程大学院生をTA及びRAとして採用し学習意欲・研究意欲の向上を図った。鹿児島大と横浜市大において特別講義を行った。		
研究	0.40	法医学の研究に資するため、期間内に80体以上の解剖を自ら執刀する。法医学講座の研究及び運営のための外部資金を獲得する。国際誌に学術論文を掲載する。			0.40	平成29年1月18日までに83体の法医解剖を自ら実施して、法医学の研究に役立てた。法医学講座として、2,500万円以上の外部資金を獲得した。国際誌Legal Medicineに原著論文がAcceptされた。		
社会 貢献	0.10	沖縄県警の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」では16時間を担当し、授業用スライド、配付プリントに図や写真を多用して医学に関する基礎知識の少ない受講警察官の理解に供する。			0.10	8月から9月にかけて上原キャンパスにおいて9回(1回4時間)の「法医実務教養」を開催し、自らは16時間の授業を担当した。配付プリントにはカラー写真・図を用いて、受講者の理解に供した。		
管理 運営	0.30	副医学部長(評価・点検担当)および部局の自己点検評価・改善委員会委員長として、部局ごとの現況調査表等作成を統括する。全学組織である第2期評価調書書類作成支援委員会や教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会の委員の責務を果たすとともに大学評価センター会議企画員として機能する。			0.30	法人評価の現況調査表及び研究業績説明書を作成し、本学の担当者に提出した。認証評価では8月に大学の自己評価書の執筆者に指名され、来年度6月の完成に向けて執筆中である。また、大学評価センター会議企画員として他の執筆者による自己評価書原稿のチェックも担当している。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福家 千昭	所 属		大学院医学研究科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.15	<p>学生に講義の内容を理解しやすくするために、ビデオや動画などを盛り込んだ講義資料を作成・準備する。 直近の事例を取り入れ、最新の中毒情報を提供する。 大学院生に対して実験の原理、本質を理解させるようディスカッションを多く取り入れ、本や文献の紹介、抄読会を積極的に行う。 指導教官として学生との連絡を密にし、修学、生活面で支援する。</p>		0.15	<p>学生に対しては危険ドラッグの事例など最新の事例を盛り込み講義内容の変更を行った。 修士課程学生に対しては例年通りの講義を行うとともに、法医学専攻の大学院生に対して研究指導、論文紹介、抄読会を行い、学位論文作成の指導を行った。 班会を2回開催し、学生の生活状況を把握し、修学に対する意識の持ち方や方法について話し合った。また、学生の修学に対する悩みの相談に対応した。</p>			
研究	0.30	<p>農薬や医薬品などの急性中毒に関する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会、中毒学会や法中毒学会などで発表する。 発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。 日本法医学会にて評議員としての活動と法医中毒ワーキンググループの一員としての役割を果たす。 法医中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行なう。 日本法中毒学会の評議員として学会運営に協力する。 日本中毒学会にて評議員として学会運営に協力する。</p>		0.20	<p>研究成果を日本法中毒学会、日本中毒学会、日本法医学会九州地方学術集会にて発表した。 発表した内容をまとめ、Legal Medicineに投稿し掲載が決定された。 法医中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行った。 日本法医学会、日本法中毒学会、日本中毒学会の評議員会に参加し学会運営に協力した。</p>			
社会 貢献	0.50	<p>法医学解剖例や医療機関から依頼された薬毒物検査を行う。</p>		0.60	<p>平成28年に解剖した症例の内34例について各薬毒物の定性・定量分析を行った。また、他施設からの依頼分析を23件行った。</p>			
管理 運営	0.05	<p>琉球大学安全衛生委員会ワーキンググループ委員</p>		0.05	<p>琉球大学安全衛生委員会ワーキンググループ委員として会議に参加した。</p>			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		二宮 賢司		所 属		医学研究科法医学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	医学科4年次の基礎配属および、6年次の選択実習の学生に対し、より具体的な法医実務の紹介を行う。大学院生に対し解剖実務の指導を行う。琉球大学医師キャリア支援センターにおける、研修医向けレクチャーを行う。				0.20	4年次ならびに6年次の選択実習生に対し法医実務の紹介を行った。大学院の講義「社会医学概論」の一部を担当し、1コマ分の講義を行った。大学院生ならびに研究生に対し法医実務に関する指導を行った。研修医向けレクチャーは2月に実施予定である。				
研究	0.60	学術論文を作成し、国際誌に投稿する。法医学関連の学会への参加、発表を行う。法医学の研究に資するため、期間内に100体以上の法医解剖を執刀する。交付されている科学研究費助成事業 若手研究(B)に関する実験を進める。				0.60	法医学に関連する国内学会に参加して発表を行った。琉球医学会に参加して発表を行った。法医学の研究に資するため、平成29年1月27日までに168体の法医解剖を執刀した。現在法医解剖例に関する英文の学術論文を投稿中である。交付を受けた科学研究費助成事業 若手研究(B)について、2月から実際の研究を開始する。				
社会 貢献	0.20	沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」を担当する。沖縄県警察の行う検視業務に協力する。小児の虐待被疑事例に関し、児童相談所の依頼に応じて生体鑑定を行う。				0.20	「法医実務教養」において8時間の講義を行った。警察学校の講義「検視実務専科」の一部を担当し、3コマ分の講義を行った。沖縄県医師会警察医部総会において講演を行った。那覇地方裁判所の依頼により、法医鑑定に関する講演を行った。児童相談所からの依頼により、虐待児の生体鑑定を4件行った。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		深沢 真希	所 属		医学研究科 法医学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学科4年生における基礎研究、および医学科6年生における選択実習では、実務的な法医学的指導を行う。大学院生に対しては、法医解剖実務ならびに診断技術を習得するための指導を行う。			0.15	医学科4年生および6年生の選択実習において、実務的な法医学的指導を行った。大学院生に対しては、法医解剖実務ならびに診断技術を習得するための指導を行った。		
研究	0.65	科研費若手研究(B)に採択された課題についての研究を進める。法医学に関連する学会に参加し、学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体以上の法医解剖を執刀する。			0.65	科研費若手研究(B)に採択された課題についての研究を進めた。法医学に関連する学会に参加し、座長を務め、またポスター発表を行った。法医学の研究に資するため、平成29年1月23日までに183体の法医解剖を自ら執刀した。法医解剖例に関する英文の学術論文を現在作成中であり、年度内に学術誌に投稿予定である。		
社会貢献	0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待されたと疑われる児の生体鑑定を行う。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。			0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待児の生体鑑定を5件行い、意見書を作成した。那覇地方裁判所からの証人召喚に応じ、傷害致死事件についての証言を行った。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行った。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において、合計8時間の講義を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		益崎 裕章	所 属	医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学生・研修医向けの講義・総回診・外来見学実習を中心とする臨床実習を通して教育・指導を徹底する。学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導、キャリア・プランニングを支援する。		0.30	当初の目標を達成できた。	
研究	0.25	教室員の論文指導を通して研究活動を推進し、学会発表、英文論文発表を中心とする成果発信を積極的に進める。国際特許をはじめ、知的財産権の獲得に努める。農林水産省や経済産業省、文部科学省などの大型競争的研究資金の獲得を目指す。		0.25	3件の特許が査定された、農水省、経産省の大型競争的研究資金を獲得した。	
社会貢献	0.05	県医師会・県栄養士会・県薬剤師会における講演や指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会・ウェブ情報発信・新聞やメディアを通じた医療啓発活動に積極的に関与する。		0.05	当初の目標を達成できた。	
管理運営	0.15	副医学部長、学務委員会委員、栄養管理部長をはじめ、院内・学内の各種委員会における職責を全うする。		0.15	当初の目標を達成できた。	
臨床	0.25	総回診や外来実習を中心として、教室全体の臨床レベルの向上と教育・指導を実践すると同時に琉球大学医学部附属病院における高度先進医療の向上・発展に貢献する。内分泌代謝、糖尿病、血液、膠原病リウマチ疾患のエキスパート(専門医)を育成する。		0.25	当初の目標を達成できた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲地佐和子	所 属		大学院医学研究科第二内科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	(1)ポリクリ学生、研修医への教育、レクチャー (2)M3、M4学生への系統講義(白血病と類縁疾患、凝固系と線用系、血友病 年3コマ)			0.20	(1)M4系統講義は十分行えた。(2)ポリクリ実習生へ患者を担当させ、毎週振り返りを行った。2015年4月～2016年1月までにのべ50人の医学生が血液内科を選択肢し、ポリクリ実習を行えた。(3)血液学会の教育認定施設であり、指導医取得のため論文執筆中である。		
研究	0.40	(1)ATL症例リサーチ:症例報告発表 (2)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、日本成人白血病研究グループ(JALSG)の多施設共同研究の施設参加 (3)ATL症例におけるFDG PET/CTの有用性についての後方視的研究 (4)(3)の継続研究として分子レベルでの解明 (5)論文作成			0.40	(1)外来、入院患者におけるATL患者へ研究内容の説明を行い、同意書を取得し検体を回収した。過去の移植成績データを解析し、発表できた。(2)JCOGの審査に通り、認定施設となった。また、十数回の県内外の研究会・講演会に参加・実施できた。(3)ATL症例の予後におけるPETの有用性について臨床研究を行い、英文論文にまとめて投稿した。		
社会 貢献	0.10	(1)製薬会社の勉強会、座談会(年2-4回) (2)県内血液内科関連施設との協力関係の構築(臨床試験の周知、移植症例の検討)			0.10	(1)製薬会社主催の講演会などの講演、座長などを勤めた。(2)県内の他施設へ臨床試験を周知し、患者の紹介をしていただいた。また、移植症例を検討し、患者の紹介をしていただいた。		
管理 運営	0.05	(1)9西病棟の無菌室の運用にかかる安全管理 (2)化学療法を行う際の抗がん剤の取り扱いに関する安全管理			0.05	(1)末梢血幹細胞採取・凍結保存のマニュアルを改訂した。(2)9階西病棟の無菌室の稼働は重大な問題もなく、稼働している。(3)抗がん剤の取り扱いに関して必ず安全キャビネットを使用する旨、繰り返し指導した。		
診療	0.25	(1)血液内科に関する診療:外来診療、入院診療、セカンドオピニオン (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年間10-12回)			0.25	(1)血液内科の外来診療は大きな問題もなく経過した。のべ約60人強の血液疾患患者の入院診療を行った。うち、病理解剖を3件実施した。(2)骨髄バンクドナーの骨髄採取は小児血液医と協力し、これまでの月1回から月2回のペースで円滑に行えるようになった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		植田 玲	所 属		琉球大学医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学生対象講義は臨床に即し、わかりやすく、実践活用可能な内容にする			0.25	実践(病棟実習、将来の研修)の即した知識が得られる授業になるよう内容を前年度と変更・修正して行った。		
研究	0.35	臨床研究実施中・また臨床症例の学会参加、発表、英語論文化を目標としている。			0.35	上級教員の指示を仰ぎながら研究・論文作成途中		
社会貢献	0.05	沖縄県糖尿病療養指導士会の運営と糖尿病教室、またそれに関わる医療スタッフとの連携や勉強会を行っていく。			0.05	1型糖尿病女性の会の講義など患者会への貢献		
管理運営	0.05	院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。			0.05	DPC委員会への出席		
診療	0.30	入院・外来、糖尿病教室において臨床レベルの自身の教条と患者教育へのスタッフ全体のレベル向上を目指す。			0.30	療養指導スタッフとの知識の共有を行った。また新しいインスリンポンプシステムの患者指導の外来診療の流れをスタッフと共に構築中		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	砂川 澄人		所 属	琉球大学医学部内分泌代謝・血液・ 膠原病内科学講座(第二内科)		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	学生へ基礎講義及び病棟実習を通じた指導教育を行い知識定着を図る。また病棟実習の学生世話役として実習が円滑に進むよう努める。		0.20	内分泌学の系統講義の一部を受け持った。4年次学生講義であるTBL (Team-Based Learning)の第二内科責任者として運営を行った。6年次学生のpost CC OSCE(卒業時客観的臨床能力試験)の問題作成者として医学教育企画室と連携して運営を行った。病棟実習(ポリクリ・クリクラ)の全グループの学生に対し第二内科の実習学生担当として研修指導や体調管理を実施できた。また全グループの学生に対しそれぞれ講義を実施した。		
研究	0.15	肥満・糖尿病患者に対する新たな病態マーカーの検索としてメタボローム解析を引き続き実施する。また新たな第二内科の臨床研究としてキサンチンオキシダーゼ活性測定の立ち上げ及び運営を担当する。		0.20	第二内科の臨床研究としてメタボローム解析の被検者管理を継続して行った。同じく臨床研究であるキサンチンオキシダーゼ活性測定の共同研究に参画し、被検者募集及び検体採取、検体処理及びデータ解析を担当した。また第二内科の研究チームの一員として同スタッフへ適宜アドバイスを行った。		
社会貢献	0.10	啓蒙活動として全国糖尿病週間に関連する講演会や無料血糖測定会及び健康相談のイベント管理を行う。小児糖尿病の学習行事であるサマーキャンプに参加する。		0.10	小児糖尿病のサマーキャンプに参加し啓蒙につとめた。		
管理運営	0.25	第二内科の副医局長として医局の運営に関わる。第二内科の教育連絡主任として教務委員会に参加したり、臨床実習担当者連絡会に参加する。		0.25	第二内科の副医局長として医局の運営に携わり、病棟で発生する医療リスクの軽減のため医師や看護師と協力して対応した。毒物・劇物取扱責任者及び化学物質管理責任者として第二内科実験室の安全管理維持に努めた。		
診療	0.35	第二内科病棟の内分泌代謝疾患患者への診療に携わる。また病院内の内分泌代謝内科外来にて専門外来診療に携わる。		0.25	第二内科の病棟患者カンファレンスに参加し確定診断や治療方針に対するアドバイスを適宜実施した。また外来にて内分泌・代謝疾患の診療に携わった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大屋 祐輔		所 属	医学研究科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>文科省GPの最終年で、実施責任者として臨床実習の改革を進める</li> <li>学生及び研修医の臨床教育において、シミュレーションの導入を進める</li> <li>担当する講義についてWEB classの利活用を進める</li> <li>指導教員として6年次学生10名の卒業と国家試験合格を支援する</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習改革は順調に進んだ。</li> <li>学生および研修医のシミュレーショントレーニングが増加した。また、全県の研修医に対して、シミュレーションを用いたトレーニングや評価がスタートする。</li> <li>WEB Classの利用を開始した。</li> <li>6年生のうち9名が卒業し、1名は留年となった</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の健康増進の取り組みのデータより研究成果をまとめる(外部資金)</li> <li>医療情報ネットワークの構築に医師会と共同して進める</li> <li>ゲノムコホートの予後調査を進める(外部資金を申請)</li> <li>医療機器開発を県内企業と進める(外部資金を申請)</li> <li>ITを活用した血圧計による離島在住高齢者の健康管理の研究を進める(外部資金)</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の健康増進の取り組みが進んだ。これをもとに沖縄県民を対象とする健康増進プログラムの作成が始まった。また、取り組みを普及させる予算を獲得する予定である。</li> <li>ゲノム取得者コホートの臨床データを蓄積している</li> <li>医療機器開発は進んでいる。また、事業化も検討している。来年度も予算を獲得した。</li> <li>ITを利用した血圧計による高齢者見守りについては継続してデータを収集している。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の健康づくり</li> <li>市民公開講座の開催</li> <li>シミュレーションセンターで市民へのセミナー・講習の開催</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の健康づくりのための事業を沖縄県の補助金で進めている</li> <li>市民公開講座を2回開催した。</li> <li>シミュレーションセンターで、小学生、高校生に対するセミナーをそれぞれ1回行った。</li> </ul>
管理 運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>副病院長として、病院の管理運営に貢献する</li> <li>シミュレーションセンター長として安定した運営体制を構築する</li> <li>診療院長として、クリニカルパスの件数増加を目指す</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院の管理運営に関与し、また、キャンパス移転における病院の構想作りを担当した。</li> <li>シミュレーションセンターの収入は着実に増加している。</li> <li>クリニカルパスは増加している。パス委員会が活性化した。</li> </ul>
診療	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度医療(TAVI、植込型人工心臓、肺動脈拡張術など)の県内での実施中心施設となるように、地域のネットワークを形成する</li> <li>在宅診療支援センターの立ち上げを支援</li> <li>在宅心不全の地域連携の取り組みを開始する</li> <li>持続的腹膜透析を実施する患者を増やす</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環器疾患の高度医療に関する県内ネットワークが形成されており、患者の紹介が増えている。</li> <li>在宅医療支援センターが設立され、活動している。</li> <li>心不全の在宅医療のための人材育成が進んでいる。</li> <li>沖縄県の透析患者の選択枝が増えたことで、腹膜透析患者が増加している。</li> </ul>
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩淵成志	所 属		循環器・腎臓・神経内科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	①M5,M6の臨床実習、循環器分野の系統講義の充実 ②循環器グループスタッフへの冠動脈カテーテル治療に関する系統講義 ③循環器分野でのあらたな臨床研究への知識の共有			0.10	①②は十分であったが、③はいまだ改善が必要。		
研究	0.30	①沖縄県の慢性冠動脈疾患患者におけるクロピドグレルからプラスグレルへの変更後の血小板凝集能に関する検討(Ryukyus Swith Study)の多枝説共同研究を完成させる。 ②模擬血管を用いたPCI教育システムの構築と実践			0.30	①の臨書研究が具体化し平成29年3月より患者エントリー開始予定。 ②は年に4回の模擬血管を使用したワークショップを開催。		
社会 貢献	0.20	沖縄県で唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の認定施設として重症大動脈弁狭窄症患者のTAVI治療の確立と臨床成績の公表			0.30	TAVIは35症例施行し良好な結果であった。県内の研究会で初期成績を発表済み。		
管理 運営	0.10	①環器グループの病床運営、紹介率向上、逆紹介率向上 ②冠動脈カテーテル治療数の増加			0.10	①②ともさらなる努力改善が必要。		
臨床	0.10	①慢性肺動脈血栓塞栓症に対するバルーン治療の増加 ②冠動脈カテーテル治療数の増加 ③重症心不全の心移植症例の管理			0.20	①③は十分な症例数と良好な臨床成績であった。②はさらなる改善が必要。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	山里 正演		所 属	大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	病棟実習において第3内科で学ぶべき基本症候をきめ、実習の際の目標をわかりやすくし、実習の充実をはかる。また、実習の新しい評価法としてのAdvanced OSCEとのつながりを意識し指導する。病棟実習生と初期研修医のカルテ記載と発表能力が向上するよう支援する。		0.25	病棟実習のガイダンスと胸痛のPBLを担当した。M3とM4に腎不全に関する講義を行った。		
研究	0.25	間葉系幹細胞とneurogenic hypertensionの関係につき検討を進め、科学研究費を獲得できるよう論文作成を進める。間葉系幹細胞の肺高血圧治療に対する可能性をモデル動物を用い検討結果をまとめる。		0.25	大学院生の研究のまとめを補助し、論文を作成した。中枢性機序による高血圧について論文を書き直し、投稿した。肺高血圧に関する論文を修正中。中枢性機序による高血圧における脳室内マクロファージの役割の検討を開始した。		
社会 貢献	0.10	入院患者への患者学習会を担当し、高血圧や腎疾患の知識の普及に努め生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。		0.10	病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧学習会を継続して行った。特に塩分摂取を減らす方法・重要性について指導している。		
管理 運営	0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う。研究助成のスケジュール管理、申請報告時の助言を行う。		0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。研究助成の申請や申請書作成補助をおこなった。		
診療	0.30	臓器合併症の発症・進展予防を目指し高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行う。朝夕の病棟回診をを通し、入院主治医への助言を行う。		0.30	高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行なった。週約30名の外来患者の診療を行なった。朝7時半と14時の病棟回診に参加し、必要な助言を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮城 剛志	所 属	大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	・高血圧、腎疾患領域を中心に学部学生講義、実習を通して実りある教育を行う。・学生からの評価について真摯に向き合い改善に努める。・学習もしくは学外での生活も含めて悩んでいる学生に積極的に介入し支援する。・学生時代に医師国家試験対策委員であった経験を活かし、国家試験対策に関する助言を行い合格率向上に寄与する。初期・後期研修医に対して病棟カンファレンス、回診を通して臨床教育を行う。		0.10	・学部学生に尿細管疾患について講義を行い、病棟実習学部学生に対し検尿実習を行うことで腎疾患の知識向上に貢献した。病棟にて回診・カンファレンスを通じて学部学生、初期・後期研修医指導を行った。	
研究	0.30	・高血圧、腎疾患領域の学会にて研究発表を積極的に行い、研究の質を高める。・海外学会誌への投稿、発表を精力的に行い研究成果を公表する。・企業、財団補助金などに積極的に応募し外部資金獲得に努める。		0.20	・腎臓学会、透析学会、高血圧学会、アメリカ腎臓学会にて腎疾患とリスクファクターの関連等について学会発表を行った。海外学会誌では共著者として発表を行った。企業補助金獲得を行った。	
社会 貢献	0.05	・日本医師会生涯教育講座対象の腎疾患を中心とした学術講演会を通して、地域医療の発展に貢献する。・産業医資格を有しているため、求めがあれば産業医としての業務を通して地域産業の発展に寄与する。		0.10	・常染色体優性多発嚢胞腎、ファブリー病の講演を通じて地域医療の発展に貢献した。産業医の活動はなかった。	
管理 運営	0.05	・附属病院感染対策委員として担当部署の感染管理に努める。・大学入試センター試験監督または警備として大学入試運営の補助的役割を果たす。		0.10	病棟医長として病棟管理を行った。大学入試センター試験警備を担当し大学入試運営の補助的役割を果たした。	
診療	0.30	・高血圧、腎疾患を中心に外来診療を行い地域医療に貢献する。・病棟カンファレンスや回診を通して入院患者診療を担う。入院患者対象に腎臓病学習会を開催し、疾患の進展予防を目指す。・病棟日直または当直業務を行い、救急医療を支える。		0.50	・高血圧、腎疾患を中心に外来診療を行い地域医療に貢献した。・病棟カンファレンスや回診を通して入院患者診療を担った。入院患者対象に腎臓病学習会を開催し、疾患の進展予防を目指した。・病棟日直または当直業務を行い、救急医療を支えた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		白石 祐之		所 属		医学部 医学科 第一外科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	学生講義や各種試験問題を、最新の情報にて更新・施行していく。				0.20	講義内容を適宜更新し、最新情報の提供に努めた。				
研究	0.20	臨床研究データを解析し、学会発表などに生かしていく。				0.20	多施設との共同研究等にて学会発表・論文作成を施行した。				
社会 貢献	0.10	各種、県内外の医学系会議の主催や参加、他病院での手術支援を行う。				0.10	県内外の研究会にて、座長・発表者・講演者などとして活動した。				
管理 運営	0.10	院内の会議等で職責を果たす。				0.10	院内の会議に定期的に出席・発言した。				
診療	0.40	肝胆膵領域の高難度手術を中心に、術者および指導者として職責を果たす。				0.40	肝胆膵外科学会の高度技能医修練施設として、若手医師への肝胆膵手術、特に高難度手術の指導を行い、職責を果たした。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城達也	所 属		消化器・腫瘍外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学部医学科の学生に対して:画像を取り入れた視覚に訴える講義を行う。シミュレーション器材を利用した外科手技実習を行う。 初期研修医に対して:基本的な外科知識・手技の獲得の指導を行う			0.25	達成できた		
研究	0.30	他の教員と共同で、消化器外科学領域の研究成果を学会などで発表する。1編以上の論文を執筆し、発表する。医局員の専門医取得に関連する論文執筆指導を行う。獲得した競争的研究資金をもとに継続的な臨床研究を行う。			0.25	英語論文については1編を執筆中の状態である。その他は達成できた。		
社会貢献	0.05	医療行政に関連する行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。			0.00	達成できなかった		
管理運営	0.15	医学部、医学部付属病院の各種委員会に参加して管理運営に貢献する。			0.15	達成できた		
診療	0.30	患者さまの診療について、特に消化器外科学会について、学会、研究会などを通じて最新の情報の獲得、手術技術の研鑽を継続的に行い、各診療科、各部門と連携しながら最適な診療の提供につとめる。			0.35	達成できた		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下地 英明	所 属		琉球大学大学院 医学研究科 消化器・腫瘍外科学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	①医学部の学生に対して: 1) 担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2) 医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②医学部学生および研修医に進路指導を行う。③日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NSTカリキュラムの作成、指導を行う。			0.25	① 1) 担当講義 1. 食道の外科的治療、2. 栄養法・NST、をおこなった。2) 1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②医学部学生および研修医に進路指導を行った。③日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NST活動と、平成28年度栄養サポートチーム専門療法士研修カリキュラムを開催し、院内外の受講生の指導と講義を行った。以上より、目標は達成できた。		
研究	0.30	①消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。②論文を作成し、発表する。③臨床研究成果を基に、科学研究補助金の申請を行い獲得を目指す。			0.30	①国内の学会・研究会で6件の発表と3件の座長を行った国外の学会で2件の発表を行った。概ね目標は全て達成できた。		
社会 貢献	0.05	①沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。②所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。			0.05	①沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。②評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。以上より、目標は全て達成できた。		
管理 運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。②コアNSTの中心メンバーとして、病棟NSTの指導を行い栄養サポートチーム加算に協力し、運営に寄与する。			0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。②栄養サポートチーム加算の施設基準の担当医師として、栄養サポートチーム加算に協力し、加算可能ものとしている。以上より、目標は全て達成できた		
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。③NSTのコアメンバーとして、NST活動を行う。①・②・③を通して、若手医師の指導と育成を行う。			0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。③NSTのコアメンバーとして、毎週のNST症例検討、NST回診のほとんどに参加した。以上より目標の全てを達成した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		青木 陽一	所 属	医学研究科 女性・生殖医学講座	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>当科診療マニュアルによる医局員教育の実施</li> <li>研究業績の授業への反映</li> <li>産婦人科専攻医に対するセミナー講演</li> <li>医学研究科大学院生7人の研究指導</li> <li>研修病院選択への助言</li> <li>医学博士号取得の勧奨</li> <li>サブスペシャリティー専門医取得の勧奨</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年前、当科診療マニュアルを発刊し、医局員教育を実施し、5名が日本産科婦人科学会専門医を取得した。</li> <li>講義、BSTに当分野の研究業績を盛り込んだ。</li> <li>8回の定例研修セミナーを行った。</li> <li>8名の大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。</li> <li>研修病院選択への助言を行った。</li> <li>2名が新たに大学院へ進学する。</li> <li>1名が周産期・新生児学会の母体・胎児専門医を取得した。</li> </ul>	
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発治験、臨床研究の遂行</li> <li>子宮頸癌、子宮体癌、周産期に関する新研究の立ち上げ</li> <li>積極的な論文執筆</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、開発治験3件が進行中、臨床研究は多数件進行しており、今年、関連論文2本をpublishした。</li> <li>子宮頸癌発癌の新研究の立案を行った。</li> </ul>	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>JGOG支持・緩和療法委員会委員町としての参画</li> <li>各種学会での理事、評議員としての参画</li> <li>沖縄産科婦人科学会での学会・研修会企画開催</li> <li>子宮がん検診勧奨のための公開講座等への参画</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種学会での理事会、評議員会への出席。</li> <li>沖縄産科婦人科学会として、年2回の沖縄産科婦人科学会の開催と胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。</li> <li>9月25日、子宮がん検診啓発のための市民公開講座を開催した。</li> </ul>	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療情報システム担当病院長補佐としての貢献</li> <li>病院臨床倫理審査委員会委員長としての貢献</li> <li>輸血療法委員長としての貢献</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療情報・臨床倫理担当病院長補佐としての職務を遂行した。</li> <li>病院システム運用委員会委員長、病院臨床倫理委員会委員長、医療情報管理センター長としての職務を遂行した。</li> <li>輸血療法委員長としての職務を遂行した。</li> <li>附属病院(治験倫理審査委員等)における各委員としての任務の遂行。</li> </ul>	
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術件数の増加、特に子宮体癌腹腔鏡下手術</li> <li>子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術(腔・子宮体部温存手術)の実施</li> <li>外来・病棟診療体制の再構築</li> <li>先進医療B子宮頸癌に対するロボット支援広汎子宮全摘施設認定への準備を行う。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数の増加を得ている。</li> <li>平成28年は広汎子宮頸部切断術を4例施行した。</li> <li>子宮体癌の腹腔鏡下手術を14例実施した。</li> <li>外来、病棟診療体制の再構築の計画・立案を行った。</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長井 裕		所 属	大学院医学研究科 女性・生殖医学講座	
	職 名	准教授			
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義の実施</li> <li>チュートリアル担当</li> <li>OSCE腹部担当</li> <li>学生病院実習での評価をフィードバック</li> <li>卒後臨床研修医運営委員会委員</li> <li>大学院生の指導・アドバイス</li> <li>医学部医学科34期生9班 指導教員</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義の実施:子宮頸癌、絨毛性疾患に関する系統講義および婦人科悪性腫瘍に対する妊孕能温存治療に関する総合講義を行った。</li> <li>学生病院実習での評価をフィードバック:病院実習における学生の要望を医局会で検討し改善してきた。</li> <li>大学院生の論文作成に対する指導、アドバイスをを行った。</li> <li>医学部医学科34期生9班の指導教員として、必要に応じて相談、対応を行ってきた。</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際/国内学会での発表</li> <li>国際誌への投稿</li> <li>婦人科悪性腫瘍に関する国際/国内臨床研究(NRG Oncology-Japan/日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)等)への参加・実施</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際/国内学会での発表: 国内全国学会で、ワークショップ1回、一般講演を2回を行った。</li> <li>関連学会誌への投稿:国際誌への掲載がなされた。</li> <li>多施設共同研究への継続参加:当科の実務担当である。積極的に他施設共同研究(治験を含む)に参加してきた(JCOG, JGOG, 米国NRG等)。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>NRG Oncology-Japan委員会 委員</li> <li>沖縄県産婦人科医会 がん関連対策部理事</li> <li>沖縄県がん診療連携協議会 普及啓発部会長</li> <li>沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局</li> <li>りゅうきゅう臨床研究ネットワーク・がん臨床研究部会委員</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局活動に関して:沖縄県内の婦人科悪性腫瘍患者の登録作業を行い沖縄産科婦人科学会誌に掲載、報告した。</li> <li>沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会会長としての活動に関して:部会を年4回開催し、ラジオ番組への参加企画、癌検診に関する中高校性に対するポスターコンテストを実施した。また教育関係者に対する講座等を行った。・沖縄県産婦人科医会がん部会理事としてし、子宮頸癌検診についての市民公開講座の運営に携わった。</li> </ul>
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部附属病院がんセンター レジメン登録審査管理委員会 委員長</li> <li>がんセンター運営委員会 委員</li> <li>医学部医学科カリキュラム委員会 委員</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジメン登録審査管理委員会 委員長として、医学部附属病院内の化学療法レジメン登録・審査を進めてきた。</li> <li>がんセンター運営委員会にレジメン登録審査管理委員会委員長として参加し、種々の議論・検討に加わった。</li> <li>医学部医学科カリキュラム委員会委員として、カリキュラムの作成に携わった。</li> </ul>
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人科診療グループの統括</li> <li>新患外来の担当</li> <li>セカンドオピニオン外来担当(婦人科領域)</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人科診療グループの実地臨床の統括、及び臨床研究の指導を行ってきた。</li> <li>産科婦人科外来の新患外来(毎週金曜日)を担当した。</li> <li>セカンドオピニオン外来の対応を行ってきた。</li> </ul>
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 忠嗣	所 属		女性・生殖医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する		0.30	A 3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。			
研究	0.30	周産期、特に超音波領域での研究テーマを見つけ数年後の論文作成を目指す		0.30	A 帝王切開創のマーキングで子宮筋層の菲薄化は防げるか、というテーマを挙げ、数年後の論文作成を目指す。			
社会 貢献	0.01	大学病院の医師の一員として求められれば人がいないところに応援に行く		0.01	A 産科当直の依頼があった時に応援に行った。			
管理 運営	0.09	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。		0.09	A リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。			
診療	0.30	日常診療、特に周産期分野において診療し、学会発表を重ねる		0.30	A 産科医として診療し、周産期新生児学会で発表した。周産期専門医を取得した。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 哲	所 属	医学研究科細菌学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	琉球大学医学部医学科の目標および履修要項に沿った、医学部細菌学講座が担当する細菌学シラバス全体の監督、講義および実習を担当する。また、カリキュラムの一環としてのM2学生を対象とした医学英語を開講し、M4学生を対象とした3週間の基礎研究を実施する。本年度より新カリキュラム編成委員として、来年度の実施へ向けての骨組みを策定する。学務委員として、医学教育の学務全般を審議する。		0.35	琉球大学医学部医学科の目標および履修要項に沿った細菌学シラバス全体の監督、講義および実習、試験を実施した。また、M2学生を対象とした医学英語を開講しカリキュラム通りに実施した。M4学生を対象とした3週間の基礎研究を実施した。医科学研究の枠組みでM3学生9人(内4人は学外または海外における研修)を受入れて研修継続中である。M5学生の指導教員を行っている。来年度より実施される新々カリキュラムの免疫・感染症分野のオーガナイザーとして、同グループ素案のとりまとめに尽力した。医学研究科主催のセミナーおよび大学院説明会を東京事務所にて実施した。学位審査会の主査1回、副査1回を担当した。	
研究	0.35	英文誌に5編程度の投稿を目標とする。細菌学会、熱帯医学会、および日米コレラ分科会の評議員またはパネルとして学会運営運営に関与する。現在AMEDが所管するe-ASIA研究資金に応募中である。またNECグループと共同でODA関連の委託事業に応募の予定である。琉球大学熱帯生物圏研究センター、および長崎大学熱帯医学研究所(AMED委託経費)、感染研(科研A)との共同研究を実施する。		0.35	英文誌に5編投稿し内2編がアクセプト、3編が審査継続中である。細菌学会、熱帯医学会、日米コレラ分科会にて抄録掲載され、発表予定である。琉球大学重点研究(単年)を受託し、熱帯生物圏研究センターと共同研究を実施した。AMED受託研究費で長崎大学熱研および東海大学医学部と共同研究を実施した。科研A研究費にてベトナムで、感染研大ビケンと共同研究を実施した。	
社会 貢献	0.10	教室スタッフと共同で、小学生・中学生向けの夏休み自由研究イベントにおいて、動物媒介感染症に関する啓もう活動を図る。また、民間主催の各種講演会に講師として参加する。		0.10	沖縄県の受託研究の一環として、子供向け自由研究イベントを実施に関わった。沖縄県小児科学会および琉球医学会にて講演を行った。	
管理 運営	0.20	学務委員会委員として、医学部医学科の学務関連業務を行う。医学科の新カリキュラム編成委員として、来年度より実施する予定の新カリキュラムの骨子を策定する。		0.20	教授会構成員として、医学研究科および医学部関連教授会に9割以上出席して審議した。学務委員として大学院博士および修士課程の諸課題を審議した。学生生活委員として、学生に関わる諸般の課題を審議した。特命教授推薦委員長として委員会を運営した。基礎教授推薦委員に任命された。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		トーマ クラウディア	所 属		大学院医学研究科・細菌学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	①新たな知見や研究成果を学生に伝えられるように講義資料を改善する ②学生からの積極的な意見の聴取		0.10	最近の研究の知見等を学生へ伝えられるように資料を改善した。また、学生の理解度を確かめるために、国家試験の過去問等を紹介し、学生と一緒に解説した。			
研究	0.80	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究		0.79	①国際雑誌論文投稿準備中。 ②3月に仙台で行われる第90回日本細菌学会総会に発表を予定している。 ③科研費基盤研究(C)を継続、沖縄県委託事業を継続 ④学外国内4カ所、海外1カ所との共同研究実地中			
社会貢献	0.10	地域貢献としての具体的取り組み		0.10	「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」のアウトリーチ活動として、夏休み自由研究イベント「蚊・ネズミによってかかる世界の病気を知ろう」を沖縄県立博物館で行った。			
管理運営	0.00			0.01	医学部長・病院長選挙管理委員会委員			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲宗根 昇	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	最新の医学情報と基本的な医学知識を、解りやすく、覚えやすいように工夫し、自ら考え理解するような講義にする。講義に関する質問は、常時受け付ける。		0.30	今年度の講義は、音響、映像、板書と多核的な手法をもって行ったので、学生の講義・実習評価は、学生から高い評価を受けた。また、M2、M3と医科学研究指導においても学生に基礎医学の楽しさ、喜びを与え、将来医師として真実の探求への自覚と自信を与えたと思われる評価を受けた。	
研究	0.50	沖縄県に生息する植物や海産物から病原菌の病原因子の働きを阻害する因子を探求する。因子が単離されたら、特許申請の可能性も検討する。		0.50	沖縄県イノベーションシステム構築事業委託共同研究を申請したが、採用に至らなかったが、来年度の募集に再度申請してほしいとの要望を受けたので、再度挑戦したい。応募した内容の一部を学術雑誌に投稿中である。	
管理 運営	0.20	委員会委員		0.20	意向調査委員会に出席し学長選の遂行に貢献した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		當眞 弘	所 属	医学部 大学院医学研究科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	学部学生に対しては、「寄生虫学」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「免疫病因病態学特論Ⅰ,Ⅱ」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。医学科5年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。		0.40	学部・大学院教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。 受持ち学生と個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。	
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文2編の国内外学術雑誌への投稿・採択、及び関連ある国内外の学会での発表1回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。		0.30	国内和文著書1編が掲載された。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、投稿予定の論文1編を作成中である。国内学会での講演1回を行った。また、ジャパンローヤルゼリー(株)との「植物由来の抗菌活性物質に関して」の共同研究を継続している。	
社会 貢献	0.10	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行う。		0.15	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。同じく沖縄県看護大学で「医動物学」の講義を行った。	
管理 運営	0.15	寄生虫・免疫病因病態学講座の一員として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。		0.15	講座の一員として、教室の管理・運営に努めた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		村上 明一	所 属		大学院医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	寄生虫・免疫病因病態学講座が行う医学部生への教育補助、さらに、博士課程学生への教育補助に積極的に参加し、博士論文作製を指導する。			0.30	寄生虫・免疫病因病態学講座の実習、基礎配属医学生の指導、博士課程学生の指導を積極的に行った。		
研究	0.50	新規抗体作製技術の研究を深め、国内外の学会で発表を目指すとともに、国際紙への論文投稿を目標とする。さらに、現行の抗体研究シーズを発展させ、科研費等の公的な研究費獲得のみならず、企業との共同研究を進めることで、多くの外部資金の調達を目指す。			0.50	主に新規抗体分子の安価・迅速開発法の研究を進め、外部資金の獲得、国内外の学会発表、企業での依頼講演などを積極的に行った。また、琉球大学内および他大学との共同研究、複数企業との共同研究を進めた。		
社会貢献	0.10	生物学的製剤を用いた検査系・治療系発展のために、基礎的な実験データを集め、その成果を日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会、国際免疫学会等で発表する。また、国際紙で発信する。			0.10	JST新技術説明会、国内外での学会発表など10か所を超える場で社会貢献につながる研究成果の発表、および、社会貢献につながるシーズの提示を行った。		
管理運営	0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理を行う。当講座の研究資金に関する運営を行う。入試監督等、琉球大学全般としての職務を進んで実行する。			0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の機器管理、試薬管理を行った。入試補助業務に積極的に協力した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高橋健造	所 属		大学院医学研究科 皮膚科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	皮膚科大学院生の研究指導、皮膚科修練医の学会発表指導、学部学生のポリクリにおける指導、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部6年生の担当教官としての指導、生活指導など持続して行っている。		0.20	皮膚科大学院生の研究指導のためのラボミーティングを週に1度、3時間実施している。皮膚科後期研修医の学会発表指導、学部学生のポリクリにおける指導、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部6年生の担当教官としての指導、生活指導など持続して行っている。
研究	0.35	大学院生の研究指導を含め、遺伝性皮膚角化症ダリエー病への創薬を塩野義との契約により継続する。悪性黒色腫における血管増生因子の解析血管肉腫の原因病原体の究明、遺伝性弾性線維腫の原因遺伝子の解明、皮膚の内因性老化因子の探索などを進める。これらの課題は、既に科研費を獲得した研究課題である。今年度は、宮古島でのカポシ肉腫の高発症の原因解析を開始し、この研究課題に関する科研費の獲得も成功した。		0.25	遺伝性角化症ダリエー病の創薬を塩野義との契約により継続し、さらにアステラス製薬とも新規契約を結んだ。沖縄に多い血管肉腫の県内疫学調査を元に、薬剤の有効性のデータを纏めている。弾性線維腫の原因遺伝子の解明、皮膚の内因性老化因子の探索などを進めている。沖縄県内の飲酒嗜好より発症するペラグラにおける一次刺激性皮膚炎が持続する原因を決定し、大学院生が学位を取得した。
社会 貢献	0.05	各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演を数回-10回ほど予定している。古宇利島での皮膚癌検診を、皮膚科医局の役目として開始する。		0.20	各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演を15回ほど実施した。古宇利島での皮膚癌検診を、皮膚科教室の持続的活動として開始した。県庁の学校保健課との協力で、県内の耐性アタマジラム症対策のための校医へのアンケートなどを開始した。県内の病院皮膚科の充実に向け、那覇市立病院、北部地区医師会病院への専門医常勤派遣を常態化した。
管理 運営	0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会の仕事も努める。		0.25	日本皮膚科学会での推薦委員、西部支部皮膚科学会理事、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会の仕事も努めている。
診療	0.20	外来診療・病棟診療での実際		0.10	週に1度の外来診療とともに、病棟回診や病棟診療をじっししている。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		眞鳥 繁隆	所 属	医学部医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	医学科学生の臨床系統講義。医学科臨床実習生の指導・教育。看護師の指導・教育。研修医・研究生・医員の指導・教育。皮膚外科コースの指導。		0.25	医学科学生の臨床系統講義。医学科臨床実習生の指導・教育。看護師の指導・教育。研修医・研究生・医員の指導・教育。皮膚外科コースの指導を行った。	
研究	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本皮膚外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科関連雑誌への論文投稿。依頼論文の投稿。		0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本皮膚外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科関連雑誌への論文投稿。依頼論文の投稿。	
社会貢献	0.25	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。市民公開講座の開催、運営。		0.25	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。臨床皮膚科学会市民公開講座の講演。	
管理運営	0.10	皮膚科外来医長としての運営管理。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード委員。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、在宅褥瘡セミナーの管理運営。		0.10	皮膚科外来医長としての運営管理。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード委員。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の管理運営。	
診療	0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。		0.30	大学病院での外来・入院・手術診療を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		苅谷 嘉之		所 属		医学部		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.25	医学部臨床実習生、研修医、医員、院生および看護師の指導・教育。				0.25	医学部臨床実習生、研修医、医員、院生および看護師の指導・教育ができた。				
研究	0.10	皮膚科学会・勉強会および病理学会への参加・発表。				0.10	皮膚科学会での発表、病理および皮膚科学会総会や皮膚科勉強会への参加をした。				
社会 貢献	0.20	沖縄県他施設での外来・病棟診療。				0.20	離島を含む県内の複数の他施設で外来・病棟診療を行った。				
管理 運営	0.25	病棟医長としての病棟管理、病理部運営会議への参加。				0.25	病棟医長としての病棟管理、病理部運営会議への参加をした。				
診療	0.20	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療。				0.20	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療を行った。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中勇悦	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部学生および大学院学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。担当する大学院生の研究指導を行い、学術論文を完成させる。また、短期留学生に授業として躰道を教える。担当する懇話会学生が4年生なので、学生生活の相談にのる。大学院生の進路についてサポートを図る。また、琉球大学躰道部の顧問および監督として躰道の指導を責任をもっておこなう。			0.30	目標を概ね達成した。		
研究	0.60	外部から調達した研究資金を基盤として、HIVとHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的に行う。国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。			0.60	目標を100%達成した。		
社会 貢献	0.05	ウイルス感染診断および研究用キットの開発に努め、広く社会に貢献できるようにする。			0.05	概ね目標を達成した。		
管理 運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。また、委員会委員を責任感を持って務める。			0.05	目標を100%達成した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤猪 英樹	所 属	医学研究科 免疫学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M2免疫学講義、実習および試験を担当</li> <li>・分子細胞生物学講義を担当</li> <li>・M2医学外国語(英語)を担当(文献の読み方を指導する予定)</li> <li>・免疫学講座に所属する大学院生の研究論文作成指導を行う。</li> <li>・3年次学生の指導教員として学生のサポートを行う。</li> <li>・ジャーナルクラブを他講座と合同で行い学生の指導を行う。</li> <li>・免疫学原著教科書の勉強会を他講座と行き、学生の参加を呼びかける。</li> <li>・FDセミナーへの参加する</li> </ul>		0.25	年度目標を全て行った	
研究	0.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハムスター母子感染モデル」を構築し、HTLV-1初期感染細胞の同定、およびHTLV-1ワクチン開発研究を行い、来年度の科学研究費補助金応募の基礎データを得る</li> <li>・外部資金獲得を考慮に入れながら大阪大学産業科学研究所とプロジェクト開始する。</li> <li>・外部資金(申請中)により富山大学和漢医薬学総合研究所と共同研究を開始する。</li> <li>・慶應義塾大学医学部皮膚科学教室と共同研究に関する論文投稿受理を目指す。</li> <li>・現在獲得中(分担)の基盤B研究を推進する</li> </ul>		0.50	年度目標を全て行った。加えて、平成28年度沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業の分担研究者として研究費を獲得し、研究をスタートした。	
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部国際認証WG</li> <li>・カリキュラム委員会</li> <li>・医学部図書館分館運営委員会</li> <li>・図書資料選定委員会</li> <li>・発明審査委員会</li> <li>・大学院改組基本方針策定タスクフォース の各委員会にて責務を果たす</li> <li>・入試業務は基本的にすべてを引き受ける</li> </ul>		0.25	左記年度目標をすべて行った。加えて、微生物学免疫学のカリキュラム策定に携わった。さらに、CBT問題作問、総合試験問題作問、入試面接委員、センター試験入試監督、総合試験監督を行った	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	高橋 良明		所 属	大学院医学研究科 免疫学講座		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	研究指導(大学院生)、免疫学講義(医学部2年次生)、免疫学実習(医学部2年次生)、基礎配属(医学部4年次生)、学内の試験監督(期末試験など)に当たる。		0.40	(1) 研究指導(大学院生)、(2) 免疫学講義(医学部2年次生)、(3) 免疫学実習(医学部2年次生)、(4) 基礎配属(医学部3年次生・4年次生)、(5) 学内の試験監督(期末試験)、(6) 総合試験I監督(医学部5年次生)を担当した。		
研究	0.50	HTLV-1感染症の病態解明と治療法確立のための基盤研究を行う。また、平成29年度科学研究費補助金の獲得に向け努力する。		0.50	HTLV-1感染症に関する研究を行い、日本免疫学会(沖縄県宜野湾市)にて発表を行った。		
社会 貢献	0.01	学外の試験監督への参加(センター試験など)。		0.01	センター試験のスタッフとして参加した。		
管理 運営	0.09	講座内設備の保全に務める(停電対策・自然災害対策・その他の緊急問題に対応)。		0.09	(1) 平日および休日に、交代で研究室内設備の保全に務めた。(2) 台風が接近した際に、研究室施設内の停電対策を行った。(3) 休日、学内工事停電の際に、研究室施設内に待機して、緊急事態に備えた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藤田 次郎	所 属		医学部 医学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.05	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫する。また画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施することで、臨床実習の充実を図る。		0.05	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫した。また画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施したものの、病院長の公務のため回診の回数が半分になった。目標をある程度達成したと自己評価する。
研究	0.25	自身が第1著者の英文論文を1編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊以上出版する。沖縄県の支援を得て、感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成(7000万円x3年間、2年目)」を継続する。治験調整医師として、抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務める。		0.25	大学院生の論文執筆の補助を実施し、多数の英文論文を発表しえた。感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を4冊出版することができた。沖縄県の支援を得て、感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成(7000万円x3年間、2年目)」を継続した。また新たに「国際医療拠点を目指した琉球大学での再生医療基盤形成(7000万円x3年間、1年目)」を獲得しえた。治験調整医師として、抗菌薬の治験を積極的に実施した。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務めた。目標以上の成果を達成できたと自己評価する。
社会 貢献	0.10	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。肺炎球菌ワクチンの公費助成に尽力するとともに講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、市民を対象として感染症、または喘息関連の講演を企画する。新聞、マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する。同時に附属病院長としての渉外活動を実施する。		0.10	感染症関連の英文論文を多数発表することで、沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信しえた。肺炎球菌ワクチンの啓蒙活動に関しては聖教新聞に記事を掲載できた。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、毎日新聞に1面記事を掲載できた。また厚生労働省の依頼を受けて、成人インフルエンザ診療ガイドラインを改訂した。同時に附属病院長としての渉外活動を実施した。目標以上の成果を達成しえたと自己評価する。
管理 運営	0.60	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たす。第一内科長としては、論文数を年間50編確保する。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担う。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部、および附属病院の移転に関して役割を果たす。		0.60	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たした。第一内科長としては、論文数を年間50編以上を確保しえた。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用した。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担った。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部、および附属病院の移転に関して役割を果たした。目標以上の成果を達成しえたと自己評価する。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		健山正男		所 属	大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学		職 名	准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育	0.10	1. 学生授業 a)目標:80%以上の出席をし、予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる。a)内容:診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う。2. 大学院生指導:学会発表、博士論文の作成を指導			0.10	学生授業においては、感染症系統講義世話人として、シラバス、カリキュラム作成にあたった。 本学の特徴である、熱帯医学、国際保健のカリキュラムを専門家を招聘し充実させた。 近年問題となっている感染症アウトブレイクに関して、医療行政の講師に依頼し医学部生の将来研修に役立てた。 大学院学生の指導を行い、研究、論文指導にあたった。			
研究	0.30	1. 学会誌への投稿 邦文1編, 1編(英文誌). 2. 著書 2編(分担) 3. 総説 2編. 2. 研究関連領域の学会発表, 総会レベルでのシンポジウム1題, 6題(共同演者含). 3. 所属学会での役割 理事, 評議員としての活動. 4. 外部資金獲得 総額200万以上の獲得(分担研究含む) 5. HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究			0.30	学会誌への投稿(筆頭著者)は0. 著書は5編, 総説1編であった0. 科学研究費獲得は2件(200万). 学会活動は全国総会のシンポジウム演者(日本性感染症学会総会)、教育講演の司会を努めた。			
社会貢献	0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演. 2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り. 3. 勤務医, 開業医むけの講演会の開催. 4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動.			0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演. 2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り. 3. 勤務医, 開業医むけの講演会の開催. 4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動. 4. 県内外でエイズ診療教育向上のため講演など活動を実施。4.			
管理運営	0.20	1. 院内貢献:a)薬事委員, b)ME機器選定委員 c)院内感染対策室実務の責任者としての活動, d) 職員血液曝露対策の実務責任者としての活動. 2. 沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(県内診療体制の構築, 研修会, 広報誌の発行)の遂行.			0.20	1. 院内貢献:a)薬事委員, b)院内感染対策室実務の責任者としての活動, c) 職員血液曝露対策の実務責任者としての活動. 2. 沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(沖縄県協議会主宰, 県内診療体制の構築, 研修会, 広報誌の発行)の遂行.			
進路指導	0.05	指導教官担当学生(22名)の留年, 退学の予防. 成績不振者に対する助言 2. 専門領域を含む進路指導. 具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催			0.05	担当した指導教官担当学生(11名)の該当年度の留年者は0であった。経済的困窮の学生の奨学資金獲得に尽力した。			
診療業務	0.30	1. HIV/AIDS診療:エイズ中核拠点病院の実務責任者として、県内の85%の患者の外来診療を担当. 2. 輸入感染症の治療環境整備(厚生省研究班指定薬剤保管者). 3. 院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導			0.30	1. 県内のHIV/AIDSの85%の診療体制構築に能っている。重症AIDS患者の救命率95%を達成. 2. 那覇市のエイズ拠点病院設置に中心者として務めた。3. 県内医療従事者育成のための研修を中心者として受け入れた。			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		古堅 誠	所 属		琉球大学 大学院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座(第一内科)	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺癌診療への理解度や関心を高めるため、学生や研修医に対して積極的にカンファレンスや院内レクチャーを行う。</li> <li>・気管支鏡検査の目的や操作の実際、気管支解剖学的構造などの理解を高めるため、臨床実習中の学生に気管支鏡シミュレーション教育を実施する。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺癌症例のカンファレンスを定期的実施し、学生や研修医が肺癌診療をより深く理解できるよう努めた。</li> <li>・医学部ポリクリ生に対して、気管支鏡シミュレーション実習を実施し、学生の呼吸器領域への関心を高めることができた。</li> </ul>		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器/肺腫瘍領域の学会での発表。</li> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)内での臨床研究に積極的に参加する。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特異な診療経過を呈した症例や、九州肺癌研究機構(LOGiK)で行った臨床試験の結果について、学会発表をおこなった。</li> </ul>		
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県内の肺癌診療医師の間で勉強会を開き、県内の肺癌診療の向上に努める。</li> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)プロトコール委員会への参加。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の肺癌診療医の間で勉強会を行い、適正な肺癌診療について情報共有をおこなった。</li> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)プロトコール委員会に参加し、プロトコール作成にかかった。</li> </ul>		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来医長として、外来診療で生じた諸問題に対応する。</li> <li>・肺腫瘍関連の新規レジメンの作成、院内レジメン委員会への出席。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来医長として外来スタッフとコミュニケーションをはかり、円滑な診療ができるよう努めた。</li> <li>・肺癌新規薬剤のレジメン申請を行い、最新の肺癌診療を行うことができた。</li> </ul>		
診療	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事する。</li> <li>・肺腫瘍患者カンファレンスを定期的に行い、診療上の問題点の解決や今後の方針決定、部所内での患者情報の共有に努める。</li> </ul>			0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来を担当し、適正な診療を行った。</li> <li>・放射線治療医と肺腫瘍患者カンファレンスを定期的に行い、院内の肺癌診療の向上に努めた。</li> </ul>		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新垣伸吾	所 属		琉球大学大学院医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	医学部学生の講義を臨床に則した内容でかつトピックを交えながら講義していく。臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実をはかる。		0.20	医学部学生、臨床実習生への講義、ベッドサイドティーチングの充実の目標は比較的達成できた。			
研究	0.20	肝疾患のおもに疫学に関する臨床研究を行う。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を1回以上行う。		0.10	肝疾患の臨床研究はいくつか進めているが、論文投稿の目標は達成できなかった。学会での報告は2回おこなった。			
社会 貢献	0.10	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。		0.15	肝疾患に関して、市民公開講座、医療従事者向けの講義(病診連携の点)を行い目標は達成できた。			
管理 運営	0.10	病院内、学部内各種委員会への参加		0.05	目標達成できた。			
診療	0.50	附属病院における診療活動の充実		0.50	附属病院における外来、病棟診療の充実ははかれた。			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 武士	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	系統講義では、学生の興味を引き付ける理解しやすいスライド作成に努め、呼吸器、感染症診療の面白さを伝えられるよう努力する。また、胸部単純写真の読影レクチャーを定期的(2週間に一回程度)に行う。卒業後の進路に悩む学生がいれば、積極的に相談にのるようにする。			0.20	系統講義ではイラストや写真を多用したスライドを用い、できるだけわかりやすい講義を行うように努めた。講義終了後には必ずいくつかの質問を受けたが、講義内容については概ね理解していることがわかった。また、病棟実習をしている4, 5年生を対象とした胸部単純写真の読影レクチャーも2週に一度、しっかりと行うことができた。		
研究	0.40	遺伝子解析技術を応用した呼吸器感染症迅速診断法の確立、そしてその臨床応用に向けた研究を進める。			0.40	マルチプレックスPCR法を用いた感染症診断を積極的に進めることができた。大学院生とも常にディスカッションをし、論文執筆も行うことができた。		
社会 貢献	0.20	貴重な症例や研究成果を積極的に国内外の学会で発表し、論文化することで、広く情報を発信する。			0.20	感染症のシンポジウムにおいて、当科で行っている研究の成果を発表し、その内容を広く発信することができた。		
管理 運営	0.10	当科における研究活動が円滑に進むよう、実験室の管理、運営を行う。			0.10	実験室の管理、運営は円滑に行うことができた。		
診療	0.10	各々の患者にベストな医療を提供できるよう、常に最新の医学情報を学ぶ姿勢で取り組む。また、患者やその家族との対話をしっかりと行い、納得した上で医療を受けてもらうよう努力する。			0.10	患者さんやご家族との対話を重視し、患者さんやご家族が望んでいることは何かを第一に考えながら診療を行うことができた。学会に積極的に参加し、また文献や書籍を通して最新の情報を得るよう努力し、それを診療に還元することができた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大野真治	所 属		医学研究科ウイルス学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当分野の講義・実習</li> <li>・基礎研究室配属学生への指導</li> <li>・学生からの講義・実習への意見の聴取とフィードバック</li> <li>・担当学生(4年次学生)の相談への対応</li> </ul>		0.30	左記の目標は達成できたが、今年度は研究室配属学生はいなかった。			
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術誌への論文発表</li> <li>・学会報告</li> <li>・学内外の研究室との共同研究</li> <li>・外部資金の獲得</li> </ul>		0.50	学外との共同研究で論文発表・学会報告を行った。学内研究室との共同研究を開始した。また、民間財団から3件の助成金を獲得した。			
社会貢献	0.05	・所属学会・研究会の会員として学会・研究会の発展に貢献する		0.10	学会・研究会に参加し、他の研究者と議論を行った。感染症・ウイルスに関する2件の教科書の分担執筆を行った。			
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任講座の管理・運営</li> <li>・所属部局での各種委員会活動</li> </ul>		0.10	学位論文資格審査委員会、遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会、病原体等安全管理委員会、広報・ホームページ管理委員会、全学広報委員会の運営に携わった。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	斉藤 美加		所 属	医学研究科	
職 名			職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.10	ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価を行なう。基礎配属の学生指導、評価を行う。技術補助員、ジェンダー協働推進室 研究等補佐員として4名の学生(連合農学博士1名、理工学研究科2名、医学部生1名)に、感染症事業および科研費研究で行なう細胞培養、遺伝子研究、解析、データベース作成、試料管理システム構築の指導、支援を行ない、成果を国内学会および国際学会で発表した。(3名の学生は共発表者)。共同研究をしている生物材料採取ネットワークの南西環境研究所担当者と蚊の分類を指導し、主要な蚊の分類が出来るようになった。	0.10	ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価を行なった。器具の取扱、希釈の仕方の実験基本手技に関するビデオを作成し、実習で上映することにより、理解度が上がり、効率的に実験が進められた。レポートでの評価を行った。教室基礎配属はなかった。技術補助員、ジェンダー協働推進室 研究等補佐員として4名の学生に、感染症事業および科研費研究で行なう細胞培養、遺伝子研究、解析、データベース作成、試料管理システム構築の指導、支援を行ない、成果を国内学会および国際学会で発表した。(3名の学生は共発表者)。共同研究をしている生物材料採取ネットワークの南西環境研究所担当者と蚊の分類を指導し、主要な蚊の分類が出来るようになった。	
研究	0.70	外部資金①沖縄県感染症研究拠点形成促進事業H27-29(予定)「動物媒介性感染症対策の沖縄での施策提言とネットワーク形成に関する研究」蚊媒介性病原体探索-遺伝学的生物学的多様性とリスク評価 蚊班班長として研究機関(酪農学園大学)、県衛生環境研究所、北部家畜保健衛生所、県家畜改良センター、企業(南西環境研究所)らとのネットワークにより、研究を実施し統括する。②科学研究費基盤C(H28-H31年度)「沖縄のコウモリに關する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」研究代表者として酪農学園大学、琉球大学研究企画室との共同により研究を実施する。	0.65	外部資金①沖縄県感染症研究拠点形成促進事業H27-29(予定)「動物媒介性感染症対策の沖縄での施策提言とネットワーク形成に関する研究」蚊媒介性病原体探索-遺伝学的生物学的多様性とリスク評価 蚊班班長として研究機関(酪農学園大学)、県衛生環境研究所、北部家畜保健衛生所、県家畜改良センター、企業(南西環境研究所)、米軍、北海道大学とのネットワークにより、研究を実施した。研究成果を国内学会2回、国際学会1回発表した②科学研究費基盤C(H28-H31年度)「沖縄のコウモリに關する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」 研究代表者として酪農学園大学、琉球大学研究企画室との共同により研究を実施した。材料採取、住民インタビューは順調に行っている。③琉球大学時空間ゲノムプロジェクトに採択され、医学研究科解剖学、研究企画室との共同研究を開始した。④ジェンダー協働推進室研究等補佐員2名(前期)利用⑤医学研究科研究教育業績評価優秀者の副賞を得る事により、研究を推進した。	
社会貢献	0.15	沖縄における蚊媒介性感染症リスク評価(主にデング、ジカ)を県担当者で行ない、助言する。沖縄県食肉衛生研究会審査員(学識経験者)として食肉の安全向上に寄与する。沖縄県内でこども向けシンポジウムを開催企画運営を行ない、媒介生物による病気について楽しく学んでもらう	0.20	沖縄における蚊媒介性感染症リスク評価(主にデング、ジカ)を隔月で県担当者で行ない、研究成果を報告し、成果をもとに施策提言を行った。沖縄県食肉衛生研究会審査員(学識経験者)として沖縄の特殊な状況下での食肉の安全向上に寄与する。沖縄県内でこども向けシンポジウムを開催企画運営を行ない、媒介生物による病気について楽しく学んでもらった。ポスター展示、生物観察、写真撮影、リモートセンシングを用いたボウフラ探しゲーム、キャラクターガジャンダバー作成、啓蒙寸劇「出たな!蚊の怪人がジャンダバー」上演し、多くの参加者があり、好評を得た。(TV、新聞報道)。琉球大学科学研究費アドバイザー登録。沖縄大学にて国際ボランティア学入門を担当。日本熱帯医学会男女協働参画委員会シンポジウムにてコメンテーターとして登壇。来年度の第52回日本脳炎ウイルス生態学研究会と高名研究者沖縄誘致、招聘を行い、世話人として、準備を進めている。	
管理運営	0.05	感染症法に関連した特定病原体の取扱教育訓練	0.05	教室特に実験室に入室する研究補助員、研究等補佐員、共同研究者を対象に感染症法に関連した特定病原体の取扱教育訓練を行った。教室が保有する特定病原体のデータ管理を行った。科研費アドバイザーに登録した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大城 絢子	所 属		大学院医学研究科 臨床研究教育管理学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	臨床研究マネジメント人材育成のために、臨床研究教育管理学講座の大学院生、臨床研究インテンスティブフェロシップ受講生、臨床研究教育管理センター利用者の研究推進のためのマネジメント(勉強会・セミナー・ワークショップ・出張カンファランスの企画)を実施する。新専門医研修プログラムとの連携や臨床研究の卒前教育の導入も検討する。			0.40	当初の予定通り、臨床研究教育管理学講座の大学院生(15名)、臨床研究インテンスティブフェロシップ受講生(30名)、臨床研究教育管理センター利用者の研究推進のためのマネジメント(勉強会・セミナー・春夏秋ワークショップ・毎月の出張カンファランスの企画)を実施した。ワークショップへは学生の参加が増え、臨床研究の卒前教育へも貢献した。		
研究	0.15	臨床研究マネジメント人材育成プログラム参加者からのアンケート集計結果を参考に、臨床研究教育分野における社会人教育モデルの適応度や妥当性を、既存のモデルをもとに検証する。			0.15	当初の予定通り、教育プログラム参加者の背景やアンケート集計結果をもとに、臨床研究教育分野における社会人教育モデルの適応度や妥当性を、既存のモデルをもとに検証し医学教育学会で発表した。またその活動成果を学術雑誌「医学教育」にて報告した。		
社会 貢献	0.25	琉球大学医学部附属病院や臨床研究マネジメント人材育成プログラムの連携医療機関のみならず、県内外よりプログラム受講者を受け入れ、国内の臨床研究力の向上に貢献する。さらにその成果を沖縄県や文部科学省・臨床研究関連の学会へ積極的に報告し、活動の継続へつなげる。			0.25	当初の予定通り、琉球大学医学部附属病院のみならず、県内外よりプログラム受講者を受け入れ、国内の臨床研究力の向上に貢献した。さらにその成果を沖縄県や文部科学省・臨床研究関連の学会へ積極的に報告した。		
管理 運営	0.25	「臨床研究マネジメント人材育成」プログラムの進捗や予算管理・規程の整備や委員会への定期的な活動報告等、組織内で情報を共有する。			0.20	当初の予定通り、「臨床研究マネジメント人材育成」プログラムの活動の様子をHPやSNSにて発信し、委員会への定期的な活動報告等、組織内で情報を共有した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			